上峰町文化財調査報告書第54集

上峰町内遺跡確認調査XIII

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—令和２年度—

2022年3月

上峰町教育委員会

上峰町文化財調査報告書第54集

上峰町内遺跡確認調査XIII

上峰町内における開発行為に伴う
埋蔵文化財確認調査報告書
—令和２年度—

2022年3月

上峰町教育委員会

序

従来、上峰町は「遺跡の宝庫」と言われてきました。北部の脊振山系、その南麓から派生し南北に延びる更新世丘陵と谷、さらに有明海へと続く沖積平野と変化に富んだ地形を含む町域には、いたるところに先人たちの暮らしの足跡が刻み込まれています。教育委員会では、こうした人々の暮らしの足跡、歴史的資産を保存活用し、将来へ継承していくために、開発と文化財の保護との調整に努めてまいりました。

近世以来の純農村集落の面影を色濃く残してきた上峰町は、昭和40年代後半から「農工併進のまちづくり」を理念に掲げ、工業団地の整備による大規模工場の誘致、農業基盤整備事業の実施とまちづくりを進めてまいりました。町の中央を国道34号線が東西に横断し、ここから、福岡県久留米市へは県道が通るという恵まれた交通環境に位置しており、佐賀市や鳥栖市、久留米市へも最適な通勤圏にあるところから、近年人口も着実に伸び、ベッドタウンとして発展してまいりました。これに伴い、各種商業施設、事業所等の町内進出も相次ぎ、上峰町は平成元年の町制施行以来、この30余年間で近代的な田園都市へと大きく変貌を遂げました。

本書は、上峰町内の埋蔵文化財の保護と開発との調整を図るために上峰町が平成元年度より国庫補助事業の適用を受け実施してまいりました町内遺跡確認調査の報告書であります。この開発に伴う町内遺跡確認調査の実施によって多くの遺跡が破壊、消滅をまぬかれ保護されてきました。この報告書を学術的な資料として、また今後の埋蔵文化財保護と開発との調整を図るための資料として役立てていただければ幸いです。

なお、この町内遺跡確認調査にあたって、ご指導、ご協力をいただきました佐賀県、開発事業主体者をはじめ、関係各位に対し深く感謝申し上げます。

令和4年3月

上峰町教育委員会
教育長　野　口　敏　雄

例　言

1. 本書は、平成元年度から国庫補助事業として、上峰町内で実施してきた町内遺跡確認調査のうち令和 2 年度に実施した町内遺跡確認調査の報告書である。
2. 本書は、令和 3 年度の国庫補助事業により、上峰町教育委員会が作成、刊行したものである。
3. 町内遺跡確認調査は、上峰町教育委員会が実施した。
4. 現場での発掘作業は、重機により表土剥ぎを行い、調査員の指示により発掘作業員が精査し、遺構・遺物の有無を確認した。
5. 現場での図面、写真による記録作業は、調査員が行った。
6. 遺構などの現場における写真撮影及び出土遺物の写真撮影は、調査員が行った。
7. 調査後の出土遺物、記録類の簡単な整理作業は、当該年度にそれぞれ実施した。
8. 本書中の挿図・写真図版などの作成作業は、調査員の指示により、整理作業員が行った。
9. 本書の執筆・編集は、調査員が行った。
10. 本報告書に係る町内遺跡確認調査で出土した全ての遺物及び現場で作成した図面・写真・その他の記録類は、上峰町教育委員会で保管している。

凡　例

1. 「確認調査」・「試掘調査」の用語については、遺跡の範囲内外を基準に「確認調査」・「試掘調査」と区分して取り扱われているが、本書では「確認調査」と統一し表記している。
2. 確認調査番号については、年度ごとに令和をあらわす「R」、年度を表す「数字」、ハイフンの後に一連の番号を付して、調査番号としている。本書中、調査位置図・確認調査一覧表・報文中の調査番号は一致する。

   例）令和 2 年度に 3 番目に実施した○○遺跡確認調査　　R02-3　○○遺跡
3. 「調査後の措置」については、本文中の標記は最終結果を記載したが、各年度の一覧表中の標記は当該年度末時点での状況を記載している。
4. 本文・挿図中の方位については、全て座標北を基準としている。
5. 先の市町村合併により、上峰町周辺の町村も合併が進み町村名が変更になっている。本書では、必要に応じて現在の市町名のあとに（　）で旧市町村名も併記している。

調 査 組 織

令和２年度

調査主体	上峰町教育委員会			
調査事務局	総　括	野口敏雄	上峰町教育委員会	教育長
	事務主任	宗雲英則	〃	文化課長
	経費執行	原田大介	〃	文化課係長
	〃	松浦　智	〃	文化課主査
	〃	伊達有彩	〃	文化課文化係
調査組織	調査員	原田大介	〃	文化課係長
		松浦　智	〃	文化課主査
		伊達有彩	〃	文化課文化係
調査指導		佐賀県地域交流部　文化・スポーツ交流局　文化課　文化財保護室		

発掘作業参加者

令和２年度

石橋　泰隆・北野　薫・生島　みどり・白土　喬・杉谷　嘉泰・田中　一馬・堤　脩次郎・豊福　政子・宮崎　正秋・牟田　康孝・山田　富士夫

江﨑　愛子・島　美保子

整理作業参加者

江﨑　愛子・島　美保子（令和３年度　整理作業員）

目　　次

序
例言・凡例
調査組織・発掘作業参加者・整理作業参加者

Ⅰ．上峰町の位置と環境……1
1．上峰町の位置……1
2．歴史的環境……1

Ⅱ．調査の概要……6
1．調査に至る経緯……6
2．調査の方法……6

Ⅲ．令和２年度の確認調査……9
R02-1　切通遺跡……14
R02-2　周知外井手口地区(1)……14
R02-3　周知外井手口地区(2)……15
R02-4　坊所二本谷遺跡……15
R02-5　坊所一本谷遺跡……16
R02-6　西前牟田遺跡(1)……17
R02-7　西前牟田遺跡(2)……19
R02-8　樫寺遺跡(1)……20
R02-9　三上遺跡(1)……20
R02-10　三上遺跡(2)……21
R02-11　周知外上米多地区(1)……21
R02-12　西前牟田遺跡(3)……22
R02-13　三上遺跡(3)……24
R02-14　四本谷遺跡……24
R02-15　米多城跡……25
R02-16　樫寺遺跡(2)……26
R02-17　坊所五本谷遺跡……28
R02-18　西峰遺跡……29
R02-19　周知外上米多地区(2)……32
R02-20　周知外上米多地区(3)……32
R02-21　三上遺跡(4)……33
R02-22　鎮西山城跡……34
R02-23　三上遺跡(5)……40
R02-24　杉寺遺跡……40
R02-25　坊所三本松遺跡……41

R02-26　一本谷遺跡 ……42
R02-27　樫寺遺跡(3) ……43
R02-28　二本柳古墳群 ……45

挿図目次

Fig. 1　上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡（1/50,000） ……2
2　上峰町遺跡地図（1/50,000） ……7
3　令和２年度　確認調査地位置図（1/50,000） ……13
4　R02-1　切通遺跡（1/5,000） ……14
5　R02-2　周知外井手口地区(1)（1/5,000） ……14
6　R02-3　周知外井手口地区(2)（1/5,000） ……15
7　R02-4　坊所二本谷遺跡（1/5,000） ……15
8　R02-5　坊所一本谷遺跡（1/5,000） ……16
9　R02-5　トレンチ設定図（1/1,000） ……16
10　R02-5　トレンチ略図（1/200） ……16
11　R02-6　西前牟田遺跡(1)（1/5,000） ……17
12　R02-6　トレンチ設定図（1/1,000） ……17
13　R02-6　トレンチ略図（1/200） ……17
14　R02-7　西前牟田遺跡(2)（1/5,000） ……19
15　R02-7　トレンチ設定図（1/1,000） ……19
16　R02-7　トレンチ略図（1/200） ……19
17　R02-8　樫寺遺跡(1)（1/5,000） ……20
18　R02-9　三上遺跡(1)（1/5,000） ……20
19　R02-10　三上遺跡(2)（1/5,000） ……21
20　R02-11　周知外上米多地区(1)（1/5,000） ……21
21　R02-12　西前牟田遺跡(3)（1/5,000） ……22
22　R02-12　トレンチ設定図（1/2,000） ……22
23　R02-12　トレンチ略図（1/200） ……22
24　R02-13　三上遺跡(3)（1/5,000） ……24
25　R02-14　四本谷遺跡（1/5,000） ……24
26　R02-15　米多城跡（1/5,000） ……25
27　R02-16　樫寺遺跡(2)（1/5,000） ……26
28　R02-16　トレンチ設定図（1/2,000） ……26
29　R02-16　トレンチ略図（1/200） ……26
30　R02-17　坊所五本谷遺跡（1/5,000） ……28
31　R02-17　トレンチ設定図（1/1,000） ……28
32　R02-17　トレンチ略図（1/200） ……28
33　R02-18　西峰遺跡（1/5,000） ……29

34 R02-18 トレンチ略図（1/200） …… 29
35 R02-18 トレンチ設定図（1/2,000） …… 30
36 R02-19 周知外上米多地区(2)（1/5,000） …… 32
37 R02-20 周知外上米多地区(3)（1/5,000） …… 32
38 R02-21 三上遺跡(4)（1/5,000） …… 33
39 R02-22 鎮西山城跡（1/5,000） …… 34
40 R02-22 トレンチ設定図（1/4,000） …… 35
41 R02-22 アスレチック広場　トレンチ設定図（1/1,000） …… 35
42 R02-22 山頂付近　トレンチ設定図（1/1,000） …… 36
43 R02-22 トレンチ略図（1/200） …… 36
44 R02-23 三上遺跡(5)（1/5,000） …… 40
45 R02-24 杉寺遺跡（1/5,000） …… 40
46 R02-25 坊所三本松遺跡（1/5,000） …… 41
47 R02-26 一本谷遺跡（1/5,000） …… 42
48 R02-26 トレンチ設定図（1/1,000） …… 42
49 R02-26 トレンチ略図（1/200） …… 42
50 R02-27 樫寺遺跡(3)（1/5,000） …… 43
51 R02-27 トレンチ設定図（1/2,000） …… 43
52 R02-27 トレンチ略図（1/200） …… 43
53 R02-28 二本柳古墳群（1/5,000） …… 45

表　目　次

Tab. 1 令和２年度　町内遺跡確認調査一覧表 …… 10・11・12
報告書抄録

図 版 目 次

PL. 1 R02-1 切通遺跡　調査地全景（南から） …… 14
2 R02-2 周知外井手口地区(1)　調査地全景（西から） …… 14
3 R02-3 周知外井手口地区(2)　調査地全景（北から） …… 15
4 R02-4 坊所二本谷遺跡　調査地全景（南東から） …… 15
5 R02-5 坊所一本谷遺跡　№1 試掘溝　遺構検出状況（南東から） …… 16
6 R02-5 坊所一本谷遺跡　№2 試掘溝　遺構検出状況（写真右が北） …… 16
7 R02-6 西前牟田遺跡(1)　調査地遠景（東から） …… 17
8 R02-6 西前牟田遺跡(1)　調査地近景（南西から） …… 17
9 R02-6 西前牟田遺跡(1)　№1 試掘溝　遺構検出状況（北から） …… 18
10 R02-6 西前牟田遺跡(1)　№1 試掘溝　遺構検出状況（写真左が北） …… 18

11 R02-6 西前牟田遺跡(1) No.1 試掘溝 遺構検出状況（東から）……18
12 R02-6 西前牟田遺跡(1) No.1 試掘溝断面……18
13 R02-6 西前牟田遺跡(1) No.3 試掘溝 遺構検出状況（東から）……18
14 R02-6 西前牟田遺跡(1) No.3 試掘溝 遺構検出状況（写真左が東）……18
15 R02-6 西前牟田遺跡(1) No.3 試掘溝 近世溝遺構検出状況（北から）……18
16 R02-6 西前牟田遺跡(1) No.1 試掘溝 機械掘削状況……18
17 R02-7 西前牟田遺跡(2) No.1 試掘溝 遺構検出状況（写真左が北）……19
18 R02-7 西前牟田遺跡(2) No.2 試掘溝 遺構検出状況（写真左が北）……19
19 R02-8 樫寺遺跡(1) 調査地全景（南から）……20
20 R02-9 三上遺跡(1) 調査地全景（南から）……20
21 R02-10 三上遺跡(2) 調査地全景（北から）……21
22 R02-11 周知外上米多地区(1) 調査地全景（南から）……21
23 R02-12 西前牟田遺跡(3) 調査地全景（南から）……23
24 R02-12 西前牟田遺跡(3) No.1 試掘溝 遺構検出状況（南から）……23
25 R02-12 西前牟田遺跡(3) No.2 試掘溝 遺構検出状況（南東から）……23
26 R02-12 西前牟田遺跡(3) No.3 試掘溝 遺構検出状況（南から）……23
27 R02-12 西前牟田遺跡(3) No.4 試掘溝 遺構検出状況（南から）……23
28 R02-12 西前牟田遺跡(3) No.4 試掘溝断面……23
29 R02-12 西前牟田遺跡(3) No.5 試掘溝 遺構検出状況（北から）……23
30 R02-12 西前牟田遺跡(3) No.5 試掘溝断面……23
31 R02-13 三上遺跡(3) 調査地全景（南から）……24
32 R02-14 四本谷遺跡 調査地全景（南東から）……24
33 R02-15 米多城跡 調査地全景（東から）……25
34 R02-16 樫寺遺跡(2) 調査地全景（南から）……27
35 R02-16 樫寺遺跡(2) No.1 試掘溝 遺構検出状況（北から）……27
36 R02-16 樫寺遺跡(2) No.1 試掘溝 遺構検出状況（写真左が北）……27
37 R02-16 樫寺遺跡(2) No.2 試掘溝 遺構検出状況（南から）……27
38 R02-16 樫寺遺跡(2) No.2 試掘溝 遺構検出状況（写真左が北）……27
39 R02-16 樫寺遺跡(2) No.5 試掘溝 遺構検出状況（写真左が北）……27
40 R02-16 樫寺遺跡(2) No.5 試掘溝 遺構検出状況（北から）……27
41 R02-16 樫寺遺跡(2) No.6 試掘溝 遺構検出状況（南から）……27
42 R02-17 坊所五本谷遺跡 調査地全景（南東から）……28
43 R02-17 坊所五本谷遺跡 No.1 試掘溝 遺構検出状況（写真左が北）……28
44 R02-18 西峰遺跡 調査地全景（東から）……31
45 R02-18 西峰遺跡 No.6 試掘溝 遺構検出状況（西から）……31
46 R02-18 西峰遺跡 No.9 試掘溝 遺構検出状況（東から）……31
47 R02-18 西峰遺跡 No.9 試掘溝断面……31
48 R02-18 西峰遺跡 No.10 試掘溝 住居跡検出状況（東から）……31
49 R02-18 西峰遺跡 No.10 試掘溝断面……31

50　R02-18　西峰遺跡　№12 試掘溝　遺構検出状況（西から）……31
51　R02-18　西峰遺跡　№12 試掘溝断面……31
52　R02-19　周知外上米多地区(2)　調査地全景（南から）……32
53　R02-20　周知外上米多地区(3)　調査地全景（南から）……32
54　R02-21　三上遺跡(4)　調査地全景（南から）……33
55　R02-22　鎮西山城跡　アスレチック広場遠景（南から）……37
56　R02-22　鎮西山城跡　鎮西山頂上付近全景（南から）……37
57　R02-22　鎮西山城跡　頂上付近№6・7 試掘溝配置状況（写真下が北）……37
58　R02-22　鎮西山城跡　頂上付近№8～11 試掘溝配置状況（写真下が北）……37
59　R02-22　鎮西山城跡　№6 試掘溝　遺構検出状況（写真右が北）……37
60　R02-22　鎮西山城跡　№6 試掘溝　溝跡検出状況（西から）……37
61　R02-22　鎮西山城跡　№6 試掘溝　礎石・ピット検出状況（西から）……37
62　R02-22　鎮西山城跡　№7 試掘溝　遺構検出状況（西から）……37
63　R02-22　鎮西山城跡　№7 試掘溝　遺構検出状況（写真左が南）……38
64　R02-22　鎮西山城跡　№8 試掘溝　遺構検出状況（写真右が北）……38
65　R02-22　鎮西山城跡　№8 試掘溝南側　溝跡検出状況（西から）……38
66　R02-22　鎮西山城跡　№9 試掘溝　遺構検出状況（西から）……38
67　R02-22　鎮西山城跡　№9 試掘溝　溝跡検出状況（東から）……38
68　R02-22　鎮西山城跡　№10 試掘溝　遺構検出状況（東から）……38
69　R02-22　鎮西山城跡　№10 試掘溝　溝跡検出状況（北から）……38
70　R02-22　鎮西山城跡　№11 試掘溝　遺構検出状況（南から）……38
71　R02-22　鎮西山城跡　№6 試掘溝出土遺物……39
72　R02-22　鎮西山城跡　№7 試掘溝出土遺物……39
73　R02-22　鎮西山城跡　№8 試掘溝出土遺物……39
74　R02-22　鎮西山城跡　№9 試掘溝出土遺物……39
75　R02-22　鎮西山城跡　№10 試掘溝出土遺物……39
76　R02-22　鎮西山城跡　№11 試掘溝出土遺物……39
77　R02-23　三上遺跡(5)　調査地全景（南から）……40
78　R02-24　杉寺遺跡　調査地全景（南から）……40
79　R02-25　坊所三本松遺跡　調査区遠景（南東から）……41
80　R02-26　一本谷遺跡　№7 試掘溝　遺構検出状況（北西から）……42
81　R02-26　一本谷遺跡　№9 試掘溝　遺構検出状況（南東から）……42
82　R02-27　樫寺遺跡(3)　調査地全景（南から）……44
83　R02-27　樫寺遺跡(3)　調査地全景（写真上が北）……44
84　R02-27　樫寺遺跡(3)　№1 試掘溝（写真上が北）……44
85　R02-27　樫寺遺跡(3)　№1 試掘溝　遺構検出状況（東から）……44
86　R02-27　樫寺遺跡(3)　№2 試掘溝（写真左が北）……44
87　R02-27　樫寺遺跡(3)　№2 試掘溝　遺構検出状況（東から）……44
88　R02-27　樫寺遺跡(3)　№3 試掘溝（写真左が北）……44

89　R02-27　樫寺遺跡(3)　№3 試掘溝　遺構検出状況（東から）……44
90　R02-28　二本柳古墳群　調査区遠景（南東から）……45

Ⅰ．上峰町の位置と環境

１．上峰町の位置（Fig. 1）

佐賀県三養基郡上峰町は、佐賀県東部の穀倉地帯である佐賀平野のほぼ中央、三養基郡の西端に位置しており、東部は三養基郡みやき町（旧中原町・旧北茂安町・旧三根町）と、西部は神埼郡吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）と境を接している。また、この神埼郡との境界は、古代以来の三根郡と神崎郡との郡界を踏襲しており、現在も町のほぼ中央を東西に横断する国道34号線付近の旧三田川町と境を接する地域は郡境地区と呼称されている。

鳥栖市から佐賀市大和町（旧佐賀郡大和町）に至る佐賀県東部には、北部に脊振山地、その南麓に発達する更新世丘陵群、さらに南部には有明海へと続く沖積平野が展開するという、変化に富んだ地形が発達している。なかでも、山麓部から沖積平野部へ移行する部分に発達する扇状地を起源とする更新世丘陵群は、山麓部に源を発し有明海へと南流する大小の河川によって浸食され北から南へ延びる舌状を呈した段丘を形成している。そして、これらの段丘の多くは古くから人々の生活の場として利用され、段丘上には数多くの遺跡が分布し、遺跡数、内容ともに県内でも有数の地域となっている。

そのようななか、南北に細長い町域をもつ上峰町においても、北部に脊振山地の山麓、中央部に更新世丘陵群、南部に沖積平野と、この佐賀県東部の特徴的な地形が展開しており、とくに中央部に発達する更新世丘陵地帯を中心に数多くの遺跡の分布が知られ、古くから「遺跡の宝庫」と呼ばれてきた。

２．歴史的環境（Fig. 1）

上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観すると、前述のとおり、脊振山山麓部から更新世丘陵部におよぶ一帯が古くから人々の生活の舞台となっており、山麓部及び各段丘上には数多くの遺跡の存在が知られ、県内においても特に弥生時代遺跡を中心に遺跡の分布密度が高い地域となっている。沖積地を望む丘陵部のほとんどが、各時代の集落あるいは墓域として占有され、とりわけ、弥生時代以降の遺跡を縄文時代以前の遺跡と比較すると、量的にも、質的にも爆発的に増加、充実する。銅鐸の鋳型を出土した鳥栖市安永田遺跡[1]、約400基の甕棺墓が検出されたみやき町（旧中原町）姫方遺跡[2]、埋納された12本の銅矛を出土したみやき町（旧北茂安町）検見谷遺跡[3]、甕棺墓から舶載鏡を出土した吉野ヶ里町（旧東脊振村）三津永田遺跡[4]、近年の工業団地建設に先立つ調査で貴重な遺構、遺物が検出された神埼市（旧神埼町）・吉野ヶ里町（旧三田川町・旧東脊振村）に跨る吉野ヶ里遺跡[5]など多くの著名な集落遺跡、墳墓群が知られ弥生時代の「クニ」あるいは「ムラ」単位の集団の存在が想定されるに至っている。南北約12km、東西約3kmと南北に細長い町域をもつ本町においても同様に、町の北部から中央部を占める更新世段丘上に弥生時代や奈良時代を中心に各時代の遺跡が分布している。

先土器時代の遺跡についてみると、各段丘で層序が異なる本地域においては本格的な調査がなされていないのが現状で、断片的な遺物の出土、採取にとどまっている。町内では、平成4年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡の調査において細石刃1点とこの時期のものと考えられる石器類が少量出土しているが、これが発掘調査における主な出土例である[6]。周辺地域では、吉野ヶ里町（旧三田川町）との境界に位置する二塚山丘陵の吉野ヶ里町（旧三田川町）側からナイフ形石器の採取例が報告されている[7]。また、平成5年度の県営農業基盤整備事業に伴う八藤遺跡下層における阿蘇4火砕流跡と埋没林に係る調査において、先土器時代の年代示標となっている姶良-Tn火山灰（AT）の含有ピークが、通常の丘陵上の埋蔵文化財調査において遺構検出面としている「地山」

上峰町
1 奥の院古墳群
2 鎮西山城跡
3 二本柳古墳群
4 鎮西山南麓古墳群
5 堤三本松遺跡
6 屋形原古墳群
7 谷渡古墳群
8 堤三本柳遺跡
9 青柳古墳群
10 新立古墳群
11 屋形原遺跡
12 堤六本谷遺跡
13 堤土塁跡
14 八藤遺跡
15 二塚山遺跡
16 五本谷遺跡
17 船石遺跡
18 船石南遺跡
19 切通遺跡
20 一本谷遺跡
21 坊所一本谷遺跡
22 上のびゅう塚古墳
23 目達原古墳群
24 坊所城跡
25 樫寺遺跡
26 杉寺遺跡
27 坊所二本松遺跡
28 坊所三本松遺跡
29 塔の塚廃寺跡
30 西前牟田遺跡
31 米多城跡
32 前牟田城跡
33 加茂環濠集落跡
34 江迎城跡
35 一ノ橋環濠集落跡
旧中原町
36 山田蔵骨器出土地
37 山田古墳群
38 大塚古墳
39 八幡社遺跡
40 簑原遺跡
41 姫方遺跡
42 姫方前方後円墳
43 姫方原遺跡
44 ドンドン落遺跡
45 町南遺跡
46 天神遺跡
47 西寒水遺跡
旧北茂安町
48 宝満谷遺跡
49 宝満宮前方後円墳
50 大塚古墳
51 東尾銅剣出土遺跡
旧三根町
52 本分貝塚
旧三田川町
53 吉野ヶ里丘陵遺跡群
54 下中杖遺跡
55 下藤貝塚
旧神埼町
56 志波屋六本松遺跡
57 伊勢塚前方後円墳
58 馬郡遺跡
旧東脊振村
59 西石動古墳群
60 戦場ヶ谷遺跡
61 三津永田遺跡
62 西石動遺跡
63 松原遺跡
64 辛上廃寺跡
65 横田遺跡

Fig. 1　上峰町内主要遺跡及び周辺遺跡（1/50,000）

の表層を構成する黄褐色風積土層の最上部付近、アカホヤ含有層のやや下部にて検出されている[8]。

縄文時代になると、みやき町（旧中原町）香田遺跡[9]や吉野ヶ里町（旧東脊振村）戦場ヶ谷遺跡[10]などが出現する。町内においても、これまでも町北部の丘陵部から土器や石器が、耕作や先覚者の遺跡の表面観察などによって断片的に出土、採取されていたが、近年の上峰北部農業基盤整備事業に伴う発掘調査の結果、平成元年度の船石遺跡11区[11]、平成2年度から5年度にわたり実施した八藤丘陵の調査[12]において、遺構や遺物がまとまって検出されている。また、近年では町中南部の坊所地区の三上遺跡においても押型文土器をもつ土壙が出土するなど比較的古い時期の遺跡の調査例も増加しており、今後のさらなる調査例の増加が期待されている。

弥生時代になると、遺跡の数や規模、その内容が飛躍的に増加、充実することは先に触れたが、早くから『魏志倭人伝』の「弥奴国」の所在地を佐賀平野東部、なかでも三養基郡西部の旧三根郡にあてる論考が行われてきたことは周知のことである。旧三根郡に所属する上峰町においても、丘陵部のほとんどにこの時期の遺跡が展開している。しかし、町の南部や中央部の米多地区、坊所地区の丘陵部は、中世以降集落として発達し、早くから宅地化が進み、本格的な発掘調査の例に乏しく、わずかに再開発に伴い部分的に小規模の発掘調査が行われているに過ぎず、遺跡の詳細について把握できていないのが現状である。これに対して、町北部の大字堤地区では、近年の工業団地建設や農業基盤整備事業など大型開発に伴い広範囲かつ大規模な発掘調査が実施され、各遺跡から当時の社会の様子を知るうえで貴重な資料が得られている。町内の代表的な遺跡としては、甕棺墓から細形銅剣や貝釧を出土した切通遺跡[13]、吉野ヶ里町（旧東脊振村・旧三田川町）に跨る、佐賀県東部中核工業団地の建設造成工事に伴い甕棺墓、土壙墓など約300基が調査され、舶載鏡、小型倣製鏡をはじめとする貴重な副葬品を出土した二塚山遺跡[14]、佐賀県住宅供給公社の宅地造成に伴う調査で一集団の集落部分の全容が明らかになった一本谷遺跡[15]、地区運動公園整備に伴う調査で5世紀代の古墳とともに支石墓はじめ多数の甕棺墓が検出された船石遺跡[16]などが知られている。また、近年の上峰北部県営農業基盤整備事業に伴う調査においても、船石遺跡[17]、船石南遺跡[18]、八藤遺跡[19]から住居址や甕棺墓などが多数検出されている。

古墳時代になると、この地域にも首長墓が出現する。初頭の時期にはみやき町(旧中原町)姫方原遺跡[20]、上峰町五本谷遺跡[21]などにおいて方形周溝墓が営まれ、やがて中期にかけて鳥栖市から佐賀市大和町に至る山麓や丘陵部に大型の前方後円墳が出現する。鳥栖市剣塚古墳[22]、みやき町(旧中原町)姫方古墳[23]、上峰町西南部から吉野ヶ里町（旧三田川町）に跨る目達原古墳群[24]、神埼市（旧神埼町）伊勢塚古墳[25]、佐賀市銚子塚古墳[26]、佐賀市大和町船塚古墳[27]など佐賀県東部の代表的な古墳が築かれるようになる。さらに後期になると、現在長崎自動車道や県道佐賀川久保 - 鳥栖線が通る山麓部から丘陵部に跨る一帯に小円墳を中心とした古墳が多数築かれ、それぞれが山麓部の尾根や谷あるいは丘陵を単位として後期古墳群を形成している。

後の『肥前風土記』にみえる三根郡米多郷に属する当時の上峰町一帯は、『古事記』、『国造本紀』などの記事によれば応神天皇の曾孫にあたる「都紀女加」なる人物が初代の米多国造として中央より下向した地域に比定され、その中心は、町南西部の米多地区から吉野ヶ里町（旧三田川町）東部の目達原（米多の原）一帯にあったと推定されている。町内の主要な古墳としては、都紀女加を始祖とする米多国造一族の墳墓として、5世紀代後半から営まれたと考えられる上のびゅう塚（陵墓「都紀女加王墓」宮内庁管轄）はじめ無名塚、大塚、古稲荷塚、稲荷塚などの前方後円墳ほかからなる目達原古墳群[28]が知られていたが、戦前の陸軍飛行場建設の際に、唯一上のびゅう塚を残し他の古墳は簡単な発掘調査の後破壊されている。また町の北部の古墳としては、同じく5世紀代の古墳で、蛇行状鉄剣、蛇行状鉄矛を出土した船石天神宮境内の船石古墳1～3号墳[29]が知られている。古墳時代後期の古墳としては、町北部の鎮西山の周辺山麓部から高位段丘上にかけて、小円墳を主体とする谷渡、青柳、新

立、奥の院、鎮西山南麓、屋形原などの古墳群が点在している。

一方、この時期の集落遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中杖遺跡[30]、吉野ヶ里町（旧東脊振村）下石動遺跡[31]などが知られているが、弥生時代集落に比べ、遺跡そのものの数も少なく、調査例も少なくいまだに実態が明らかになっていないのが現状である。町内の遺跡をみても、当時の政治的中心であったと考えられる町中南部の坊所、米多地区周辺における本格的な発掘調査の例がなく、今後の大きな課題といえる。

奈良・平安時代遺跡としては、吉野ヶ里町（旧三田川町）下中杖遺跡、吉野ヶ里町（旧東脊振村）辛上廃寺跡[32]、霊仙寺跡[33]などが著名であるが、この時期の遺跡についてもまとまった調査例が少なく、実態はあまり解明されていない。当時の遺構として大規模なものは、佐賀平野に敷かれた条里制の遺構が上げられ、早くから地名などから条里の復元が試みられ、現在ではほとんどの条里が復元されている。また、大宰府から肥前国府へ通じる官道の調査も進み、近年部分的な発掘調査が行われている。

町内では堤土塁跡[34]や塔の塚廃寺跡[35]などが奈良時代の遺跡として戦前から注目されている。町北部の堤地区の八藤丘陵と二塚山丘陵の間の谷底平野を遮断する形で築かれた堤土塁跡は、版築工法により築かれた福岡県の水城に似た施設＝「小水城」で、その築造目的が、大宰府の防衛施設であるとする説、灌漑用水確保のための溜池の堤防であるとする説など議論がなされてきたが、平成2年度からの土塁の東方に接する八藤丘陵の調査において、土塁東端から一直線に八藤丘陵を東方へ横断する道路側溝状の遺構が検出され[36]、その性格付けにあらたに古代道の存在が想定されることとなった。また町南西部を占める目達原丘陵の南端部に位置する塔の塚廃寺跡は、百済系単弁軒丸瓦が発見され、戦前までは基壇、礎石の存在が知られていた奈良時代中期の寺院址で、目達原古墳群を営んだ米多国造一族の流れをくむ三根郡の郡司層によって建立したものと推定されている。また、町内における奈良・平安時代の集落は、農業基盤整備事業に伴う調査や近年の大規模小売店舗建設に先立つ坊所一本谷遺跡[37]の調査などでまとまった調査がなされたのみで、今後の調査例の増加が期待される。

中世になると、北部の山麓部の小峰に山城が築かれ、沖積平野部には環濠を伴う平城や集落が出現する。町内の中世城館址としては、北部の鎮西山城跡、上峰町中央部の平野を臨む丘陵部に坊所城跡、町南部の平野部には米多城跡、前牟田城跡、江迎城跡、一ノ橋環濠集落、加茂環濠集落などが知られていた[38]。しかし、昭和40年代後半からの圃場整備事業によって、これら平野部の遺構は、原状がほとんど失われてしまった。そのようななかで、町の親水公園として整備された江迎城跡では13世紀後半代の龍泉窯系の青磁碗が建物跡ともに出土し、また、坊所城跡では16世紀後半代の青花がそれぞれ出土している[39]。

以上、上峰町を中心に佐賀県東部の遺跡を概観したが、まさにこの地域は遺跡の密度、その内容ともに高く、遺跡の宝庫と呼ぶにふさわしい地域といえる。

註

1) 藤瀬禎博・石橋新次　『柚比遺跡群範囲確認調査第3年次概要報告書』　鳥栖市文化財調査報告書第30集　鳥栖市教育委員会　1980
2) 木下巧・天本洋一　『姫方遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第30集　佐賀県教育委員会　1974
3) 七田忠昭　『検見谷遺跡』　北茂安町文化財調査報告書第2集　北茂安町教育委員会　1986
4) 金関丈夫・坪井清足・金関恕　「佐賀県三津永田遺跡」『日本農耕文化の生成』　日本考古学協会　1961
5) 七田忠昭他　『吉野ヶ里』　佐賀県文化財調査報告書第113集　佐賀県教育委員会　1992
6) 原田大介　『八藤遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第16集　上峰町教育委員会　1999
7) 七田忠志　「原始」『上峰村史』　上峰村　1979
8) 下山正一・西田民雄　「Ⅱ．佐賀県上峰町周辺の地形と地質」『佐賀平野の阿蘇4火砕流と埋没林』　上峰町文化財調査報

告書第11集　上峰町教育委員会　1994
9）高瀬哲郎・堤安信・久保伸洋　「香田遺跡」『香田遺跡』　九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書2　佐賀県文化財調査報告書第57集　佐賀県教育委員会　1981
10）七田忠志　「佐賀県戦場ヶ谷遺跡」『史前学雑誌』　6－2・4　1934
11）原田大介　『船石遺跡Ⅴ』　上峰町文化財調査報告書第12集　上峰町教育委員会　1995
12）原田大介　『八藤遺跡Ⅱ・堤土塁跡Ⅱ』　上峰町文化財調査報告書第14集　上峰町教育委員会　1998
前出（6）
13）金関丈夫・金関恕・原口正三　「佐賀県切通遺跡」『日本農耕文化の生成』　日本考古学協会　1961
14）高島忠平・七田忠昭他　「二塚山遺跡」『二塚山』　佐賀県文化財調査報告書第46集　佐賀県教育委員会　1979
15）七田忠昭　『一本谷遺跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1983
16）七田忠昭　『船石遺跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1983
17）鶴田浩二・原田大介　『船石遺跡Ⅱ図録編』　上峰村文化財調査報告書第6集　上峰村教育委員会　1988
鶴田浩二・原田大介　『船石遺跡Ⅱ本文編』　上峰村文化財調査報告書第7集　上峰村教育委員会　1989
原田大介　『船石遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第8集　上峰町教育委員会　1990
原田大介　『船石遺跡Ⅳ』　上峰町文化財調査報告書第9集　上峰町教育委員会　1991
18）原田大介　『船石南遺跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第21集　上峰町教育委員会　2002
原田大介　『船石南遺跡Ⅱ』　上峰町文化財調査報告書第22集　上峰町教育委員会　2002
19）原田大介　『八藤遺跡Ⅰ』　上峰町文化財調査報告書第13集　上峰町教育委員会　1997
20）木下巧他　『姫方原遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第33集　佐賀県教育委員会　1976
21）木下　巧・七田忠昭　「五本谷遺跡」『二塚山』　佐賀県文化財調査報告書第46集　佐賀県教育委員会　1979
22）石橋新次　『剣塚前方後円墳』　鳥栖市文化財調査報告書第22集　鳥栖市教育委員会　1984
23）前出（2）
24）松尾禎作　「目達原古墳群調査報告」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』　第9輯　佐賀県教育委員会　1950
25）木下之治　「古代国家の形成」『佐賀県史』佐賀県　1968
26）木下之治編　『銚子塚』　佐賀市教育委員会　1976
27）松尾禎作　『佐賀県考古大観』　祐徳博物館　1959
28）前出（24）
29）前出（16）
30）七田忠昭・高山久美子・西田和己　『下中杖遺跡』　佐賀県文化財調査報告書第54集　佐賀県教育委員会　1980
31）高瀬哲郎他　「下石動遺跡」『下石動遺跡』　九州横断自動車道関係埋蔵文化財発掘調査報告書（6）　佐賀県文化財調査報告書第86集　佐賀県教育委員会　1987
32）松尾禎作　「東脊振村辛上廃寺跡の調査」　『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』第5輯　佐賀県　1936
33）田平徳栄他　『雲仙寺跡』　東脊振村文化財調査報告書第4集　東脊振村教育委員会　1980
34）高島忠平・柾一義　『堤土塁跡』　上峰村文化財調査報告書　上峰村教育委員会　1978
35）松尾禎作　「塔の塚廃寺址」『佐賀県史蹟名勝天然記念物調査報告』　第7輯　佐賀県　1940
36）前出（12）
原田大介　『八藤遺跡Ⅲ』　上峰町文化財調査報告書第16集　上峰町教育委員会　1999
37）平成5、6年度、上峰町教育委員会調査、整理中
38）米倉二郎　「中世」『上峰村史』　上峰村　1979
39）原田大介　『坊所城跡』　上峰町文化財調査報告書第10集　上峰町教育委員会　1992

Ⅱ．調査の概要

１．調査に至る経緯

上峰町教育委員会では、平成元年度より、国庫補助事業の適用を受け、埋蔵文化財保護と開発との調整を図るため開発行為に伴い町内遺跡について事前の確認調査を実施してきた。民間あるいは公共機関等が主体となって実施される町内における各種開発行為について事前に協議を行い、周知の埋蔵文化財包蔵地の内外にかかわらず、これまでに埋蔵文化財発掘調査歴がない土地については、開発面積や工法等の制約がない限り、開発主体者等に事前の確認調査の実施にむけた協力を要請している。

２．調査の方法

確認調査の方法は、開発予定地に面積的、地形的な制約がない場合、原則として10m×3mの試掘溝により地下の遺構・遺物の有無を確認することとしている。図上で開発予定範囲全体に10mのメッシュを組み、このメッシュに10m×3mの試掘溝を一マスおきに市松模様状に設定し、試掘溝の配置計画を作成している。この試掘溝配置計画をもとに現地で試掘溝を設定し、確認調査を実施している。

また、開発面積に対する試掘面積の割合は、事前に図上で試掘溝を設定する時点ではおおむね開発面積の10%を目途としているものの、実際の調査では現地の種々の制約により、試掘溝の規模、配置等は臨機応変な対応を採ることも多く、試掘面積を縮小せざるを得ない場合も少なくはない。

各試掘溝の掘削については、遺構検出面までの掘削には可能な限り重機を使用しているが、重機が使用できない場合、包含層や遺構の掘り下げなどそれ以上の精査が必要な場合などは作業員の人力により掘削を行っている。

試掘の結果、遺構などが検出された試掘溝については、適宜、遺構配置等の略測を行い、縮尺1/100程度の平面図、縮尺1/20程度の土層断面図を作成し、フィルムカメラ・デジタルカメラによる写真撮影を行い記録としている。作業終了後は、原則として試掘溝は埋め戻しを行い原状への復旧を図っている。

また、確認調査の結果、開発予定地内から遺構や遺物が検出された場合で、かつ、調査原因が個人専用住宅の建設、個人による自己所有農地の改良など、遺跡の記録保存等に係る経費について、これを開発主体者に求めることが困難であると認められる場合は、本補助事業の予算の範囲内において、検出された地下の埋蔵文化財に工事の影響が及ぶ範囲について記録保存を目的とした必要最小限の本調査を実施することとしている。

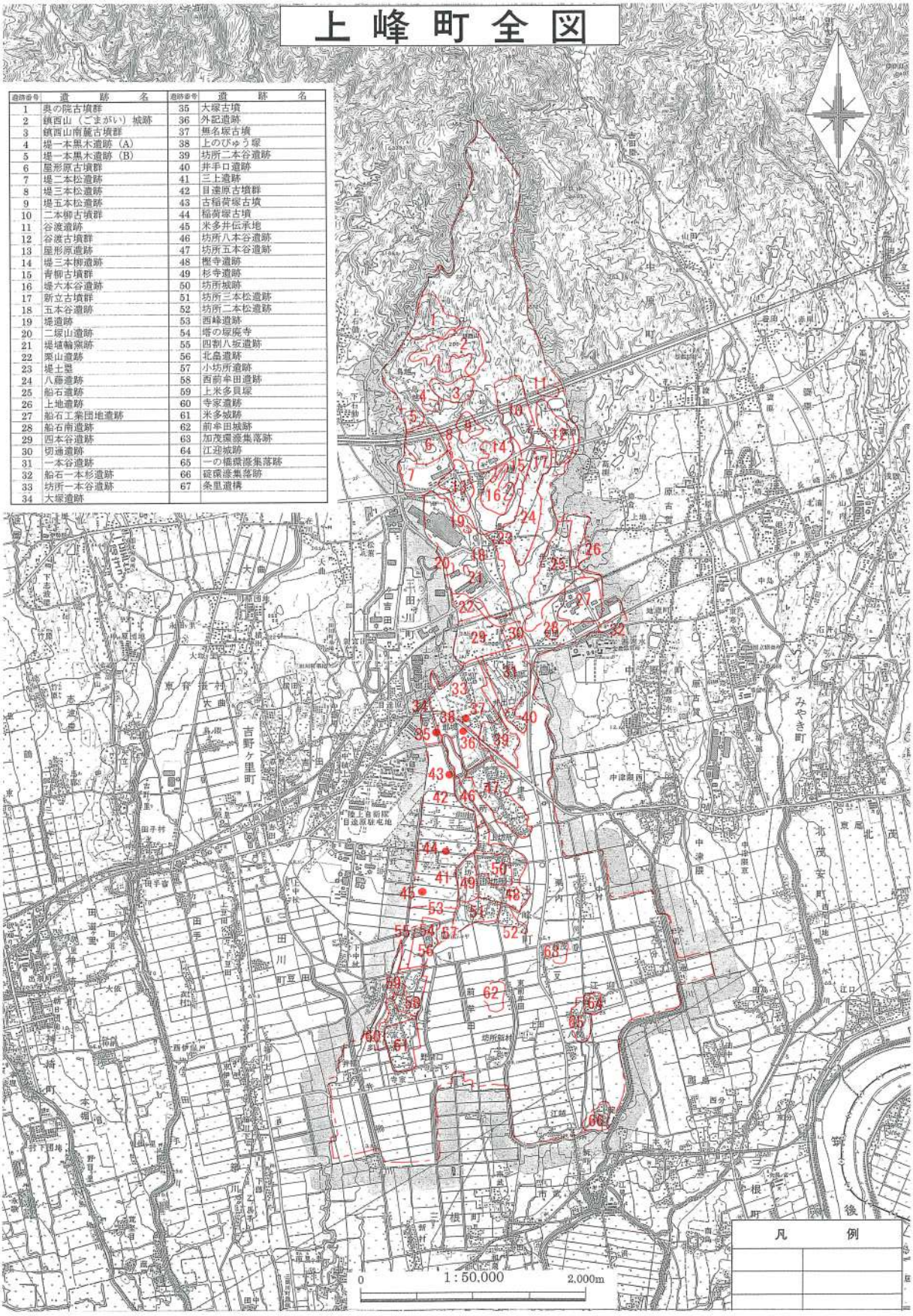


Fig. 2　上峰町遺跡地図（1/50,000）

Ⅲ．令和2年度の確認調査

Tab.1　令和2年度　町内遺跡確認調査一覧表

№	遺　跡　名	所　在　地	原　因　者	事業内容	工事面積(㎡)	調査面積(㎡)	確認調査時期	確認調査結果	調査後の措置	備　考
1	切通遺跡	上峰町大字堤字四本谷 1903番179	個人	個人専用住宅建設工事	284	32	令和2年4月21日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
2	周知外井手口地区(1)	上峰町大字坊所字三本谷 2334番1 2338番1	(有)金子物流	物流施設建設工事	6,322	90	令和2年4月22日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
3	周知外井手口地区(2)	上峰町大字坊所字二本谷 2441番3 2442番1 2444番1 2352番1	千豊合同会社	物流施設建設工事	4,376	70	令和2年4月23日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
4	坊所二本谷遺跡	上峰町大字坊所字二本谷 2426番29	個人	個人専用住宅建設工事	301	32	令和2年4月24日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
5	坊所一本谷遺跡	上峰町大字坊所字七本谷 1591番1	(株)MHGソリューションズ	共同住宅建設工事	453	48	令和2年4月30日	土壙・ピット・溝跡・及び土師器片を確認した。	工事実施	検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
6	西前牟田遺跡(1)	上峰町大字前牟田字祇園町 1677番	(株)おおぞら不動産	分譲宅地造成工事	1,029	90	令和2年5月21日	井戸跡・土壙・ピット・溝跡及び弥生土器片・近世染付磁器片を確認した。	本調査終了後、工事実施	
7	西前牟田遺跡(2)	上峰町大字前牟田字北畠 1790番	個人	駐車場造成工事	448	40	令和2年6月20日	住居跡・土壙・ピット・溝跡及び弥生土器片を確認した。	工事実施	検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
8	樫寺遺跡(1)	上峰町大字坊所字樫寺 850番3	個人	個人専用住宅建設工事	338	16	令和2年6月26日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
9	三上遺跡(1)	上峰町大字坊所字西峰 2749番1	個人	個人専用住宅建設工事	287	21	令和2年6月29日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
10	三上遺跡(2)	上峰町大字坊所字西峰 2980番9	(株)栗原木材店 ハウスドゥ！佐賀兵庫北店	分譲建売住宅建設工事	416	6	令和2年6月29日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
11	周知外上米多地区(1)	上峰町大字前牟田字五本松 1824番1 1826番	(株)おおぞら不動産	分譲宅地造成工事	4,297	135	令和2年7月31日 令和2年8月3日 令和2年8月4日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
12	西前牟田遺跡(3)	上峰町大字坊所字前牟田字祇園町 1786番1 1786番2 1793番 1796番2 1797番 1779番1(平成19年度実施分) 1780番1(平成19年度実施分)	(株)おおぞら不動産	分譲宅地造成工事	2,698 (うち調査対象面積1,615㎡)	150	令和2年8月5日	井戸跡・土壙・ピット・溝跡及び弥生土器片を確認した。	開発予定地内から埋蔵文化財が検出されたことを受け、開発計画が中止となった。	

13	三上遺跡(3)	上峰町大字坊所字三上 3154番 3186番	㈱RisingSun	分譲宅地造成工事	3,558	215	令和2年8月6日 令和2年8月7日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
14	四本谷遺跡	上峰町大字堤字四本谷 1364番1の一部 1364番2の一部	宗教法人成田山龍王院	納骨堂建設工事	82	8	令和2年9月14日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
15	米多城跡	上峰町大字前牟田字姥井鶴 657番1	個人	個人専用住宅建設工事	654	16	令和2年9月29日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
16	樫寺遺跡(2)	上峰町大字坊所字樫寺 667番3 849番4 849番5 850番1 850番2 851番1	㈱不動産買取センター	分譲宅地造成工事	3,248	170	令和2年9月30日 令和2年10月1日 令和2年10月2日	奈良時代の住居跡・土壙、中世の土壙・溝跡及び土師器片・須恵器片・中世土器片を確認した。	本調査(一部)終了後、工事実施	
17	坊所五本谷遺跡	上峰町大字坊所字五本谷 2088番1	一建設㈱	戸建分譲住宅建設工事	460	30	令和2年10月6日	土壙・柱穴列・溝跡及び土師器片・須恵器片・中世土器片、中世陶磁器片・近世陶磁器片を確認した。	下水道の工事立会後、工事実施	検出された遺構については、盛土保存。
18	西峰遺跡	上峰町大字前牟田字小坊所 1956番68、1956番150、1956番151 1956番152、1956番153、1956番154 1956番155 上峰町大字坊所字西峰 2832番2、2833番2、2834番2 2836番2、2837番2、2838番2 2839番2、2840番2、2841番2 2842番2、2858番3、2859番2 2860番2、2862番2、2865番2 2866番2、2869番2、2871番2 2872番2、2875番2、2876番2 2907番2、2909番2、2910番2 2911番3、2912番2、2913番3 2914番3、2915番2、2915番3 2916番2、2917番2、2918番3 2919番2、2920番2、2921番3 2922番2、2923番2、2924番2	上峰町	町道改良工事	2,129	122	令和2年10月20日 令和2年10月21日	住居跡・土壙・ピット・溝跡及び古墳時代の埴輪片を確認した。	本調査(一部)終了後、工事実施	
19	周知外上米多地区(2)	上峰町大字前牟田字五本杉 1568番1	個人	共同住宅建設工事 太陽光パネル建設工事	1,158	50	令和2年11月5日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
20	周知外上米多地区(3)	上峰町大字前牟田字五本杉 1576番1、1580番1、1580番3 1581番1、1582番1	個人	資材置場造成工事	2,889	80	令和2年11月5日 令和2年11月6日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	

21	三上遺跡(4)	上峰町大字坊所字西峰 2962番11	個人	個人専用住宅建設工事	464	40	令和2年11月24日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
22	鎮西山城跡	上峰町大字堤字三本黒木 4474番1 4474番5 4474番6 4553番	上峰町	鎮西山再整備事業	22,500	192	令和2年12月23日 令和2年12月25日 令和2年12月26日	山頂付近の各試掘溝から、中世の溝跡・土壙及び、中世土器片・中世の中国産陶磁器片を確認した。アスレチック広場の各試掘溝からは、遺構・遺物は確認できなかった。	次年度以降に本調査の予定。	
23	三上遺跡(5)	上峰町大字坊所字西峰 2962番6	個人	個人専用住宅建設工事	412	42	令和3年1月19日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
24	杉寺遺跡	上峰町大字坊所字杉寺 1271番5 上峰町大字坊所字西峰 2815番	㈱糸山建設	共同住宅建設工事	751	24	令和3年2月5日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
25	坊所三本松遺跡	上峰町大字坊所字西峰 2845番1	KDDI㈱西日本 テクニカルセンター	KDDI携帯無線基地局 建設工事	66	7	令和3年2月5日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
26	一本谷遺跡	上峰町大字坊所字三本谷 2408番1、2408番2 2334番2、2381番 2387番、2388番	(有)カー・セレクト	屋外中古車展示場 造成工事	6,596	90	令和3年2月24日 令和3年2月25日	土壙・ピットを確認した。遺物は確認できなかった。	工事未着手	
27	樫寺遺跡(3)	上峰町大字坊所字樫寺 579番1の一部 580番1の一部 581番1	株式会社伸晃建設	分譲宅地造成工事	812	70	令和3年3月9日	住居跡・土壙・溝跡・ピット及び弥生土器片、土師器片を確認した。	道路部分の側溝、上下水道埋設工事については工事立会、記録保存を行う予定。	宅地部分については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。
28	二本柳古墳群	上峰町大字堤字谷渡 1651番330 1651番331	個人	個人専用住宅建設工事	364	30	令和3年3月25日	遺構・遺物は確認できなかった。	工事実施	
				合計	67,392	1,916				

Fig. 3　令和2年度　確認調査地位置図（1/50,000）

R０２－１

遺跡名：切通遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷1903番179

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：284㎡

調査面積：32㎡

調査時期：令和2年4月21日

立地と環境：　切通遺跡は町中北部の上峰町大字堤字四本谷に所在し、二塚山丘陵上に位置している。弥生時代の甕棺墓群を主体とする墳墓遺跡である。

　調査対象区域は、二塚山丘陵の南部、標高 20m 付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

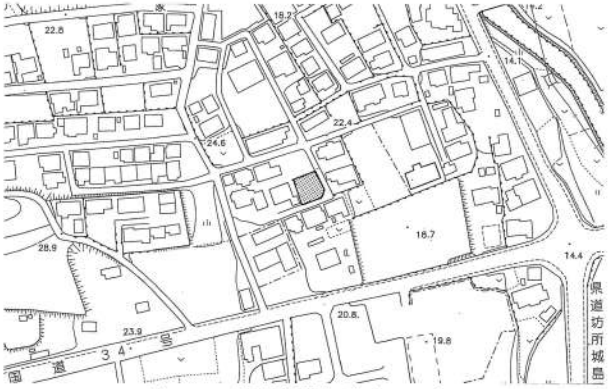


Fig. 4　切通遺跡（1/5,000）

PL. 1　調査地全景（南から）

R０２－２

遺跡名：周知外井手口地区(1)

調査地：上峰町大字坊所字三本谷2334番1、2338番1

工事内容：物流施設建設工事

工事面積：6,322㎡

調査面積：90㎡

調査時期：令和2年4月22日

立地と環境：　調査対象区域は町東部、井手口地区の標高 12m 付近に位置し、これまで田地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

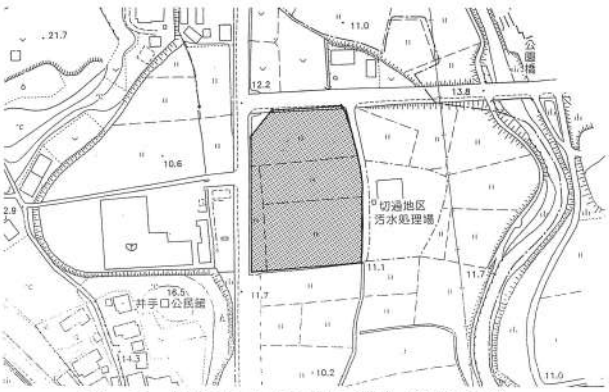


Fig. 5　周知外井手口地区(1)（1/5,000）

PL. 2　調査地全景（西から）

R02－3

遺跡名：周知外井手口地区(2)

調査地：上峰町大字坊所字二本谷2441番3、2442番1、2444番1、2352番1

工事内容：物流施設建設工事

工事面積：4,376㎡

調査面積：70㎡

調査時期：令和2年4月23日

立地と環境：　調査対象区域は町東部、井手口東丘陵と井手口西丘陵の間にある侵食谷が切通川西岸の氾濫原へ移行する谷口部の標高10m 付近に位置する。

　調査対象区域は、これまで田地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 6　周知外井手口地区(2)（1/5,000）

PL. 3　調査地全景（北から）

R02－4

遺跡名：坊所二本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字二本谷2426番29

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：301㎡

調査面積：32㎡

調査時期：令和2年4月24日

立地と環境：　坊所二本谷遺跡は、本町堤地区付近から井手口住宅地区付近へ延びる井手口西丘陵の南部、標高 12～24m 付近に広がる弥生時代の集落跡である。

　調査対象区域は、目達原丘陵から本町坊所地区へ派生する坊所丘陵上の標高18m 付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

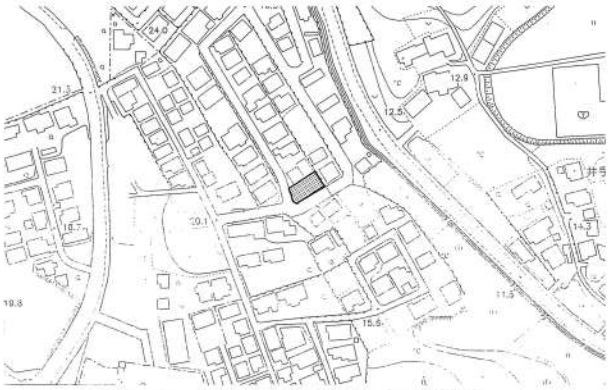


Fig. 7　坊所二本谷遺跡（1/5,000）

PL. 4　調査地遠景（南東から）

Ｒ０２－５

遺跡名：坊所一本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字七本谷1591番1

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：453㎡

調査面積：48㎡

調査時期：令和2年4月30日

立地と環境：　坊所一本谷遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から井手口・下津毛両地区へ派生する丘陵の基部、標高 20～26m 付近に広がる弥生時代の集落跡である。

　調査対象区域は、本町郡境地区の標高21m 付近に位置しており、これまで空き地となっていた。

遺構と遺物：土壙・ピット・溝跡、及び土師器片を確認した。

調査後措置：工事実施。検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

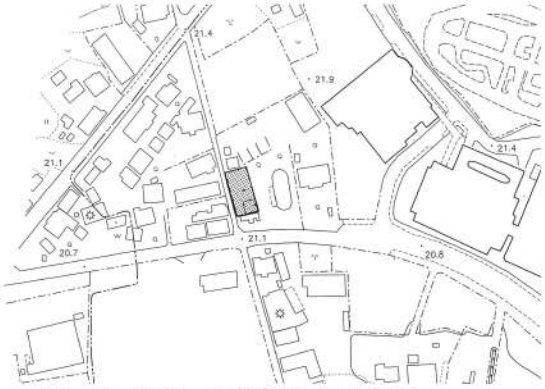


Fig. 8　坊所一本谷遺跡（1/5,000）

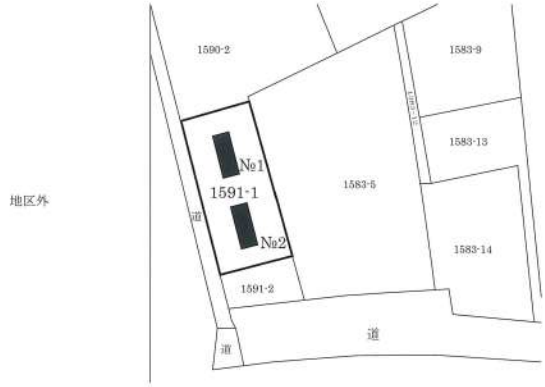
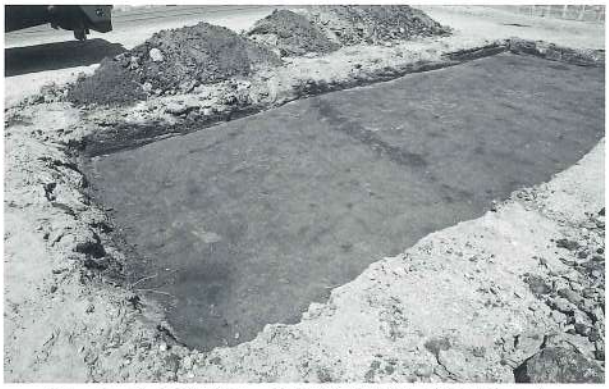
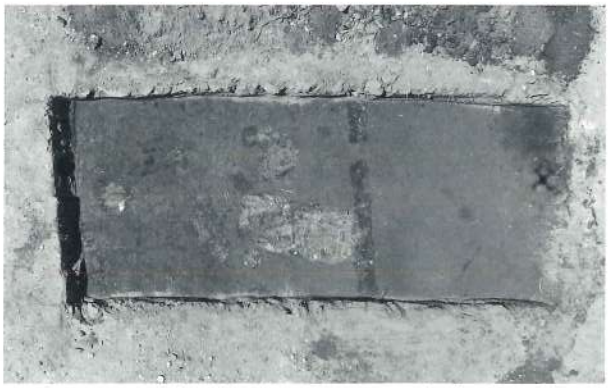


Fig. 9　トレンチ設定図（1/1,000）



PL. 5　№1試掘溝　遺構検出状況（南東から）



PL. 6　№2試掘溝　遺構検出状況（写真右が北）

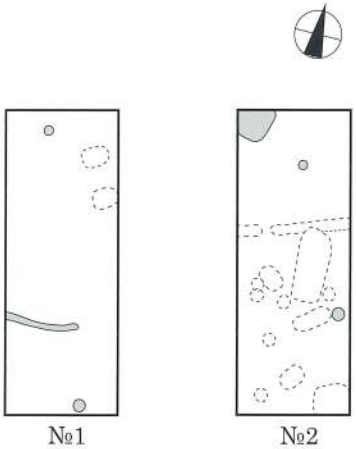


Fig. 10　トレンチ略図（1/200）

Ｒ０２－６

遺跡名：西前牟田遺跡(1)

調査地：上峰町大字前牟田字祇園町1677番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：1,029㎡

調査面積：90㎡

調査時期：令和2年5月21日

立地と環境：　西前牟田遺跡は、本町北西部の上米多集落付近へ延びる目達原南端部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域はこの目達原丘陵の南端部の微高地、標高 5～6m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：井戸跡・土壙・ピット・溝跡及び、弥生土器・近世陶磁器片を確認した。

調査後措置：本調査終了後、工事実施

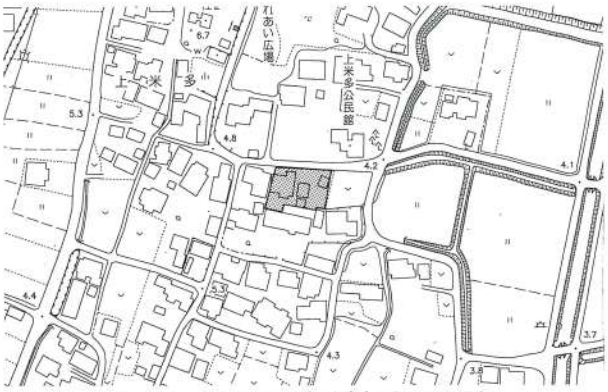


Fig.11　西前牟田遺跡(1)（1/5,000）

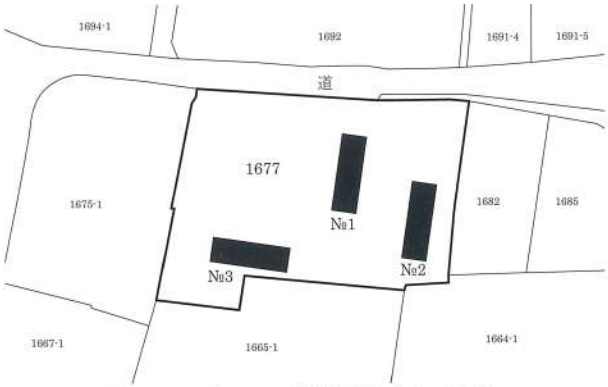


Fig. 12　トレンチ設定図（1/1,000）

PL. 7　調査地遠景（東から）

PL. 8　調査地近景（南西から）

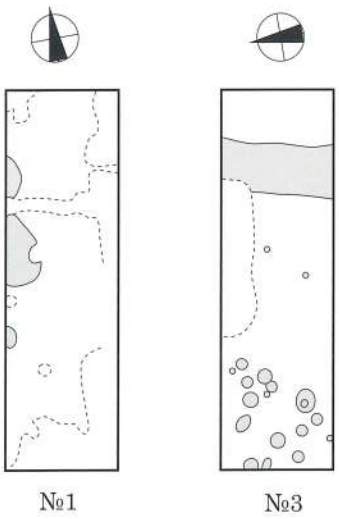


Fig. 13　トレンチ略図（1/200）

PL. 9　No.1試掘溝　遺構検出状況（北から）

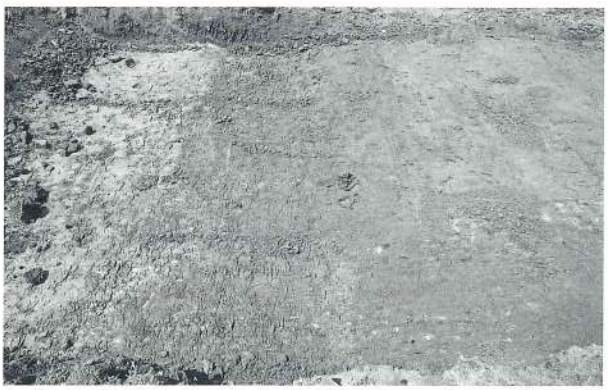
PL. 10　No.1試掘溝　遺構検出状況（写真左が北）

PL. 11　No.1試掘溝　遺構検出状況（東から）

PL. 12　No.1試掘溝断面

PL. 13　No.3試掘溝　遺構検出状況（東から）

PL. 14　No.3試掘溝　遺構検出状況（写真左が東）



PL. 15　No.3試掘溝　近世溝遺構検出状況（北から）

PL. 16　No.1試掘溝　機械掘削状況

Ｒ０２－７

遺跡名：西前牟田遺跡(2)

調査地：上峰町大字前牟田字北畠1790番

工事内容：駐車場造成工事

工事面積：448㎡

調査面積：40㎡

調査時期：令和2年6月20日

立地と環境：　西前牟田遺跡は、本町北西部の上米多集落付近へ延びる目達原南端部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域はこの目達原丘陵の南端部の微高地、標高 6m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：住居跡・土壙・ピット・溝跡及び、弥生土器片を確認した。

調査後措置：工事実施。検出された遺構については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

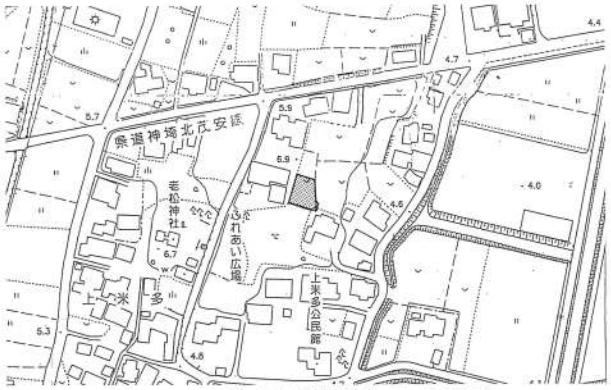


Fig.14　西前牟田遺跡(2)（1/5,000）

Fig. 15　トレンチ設定図（1/1,000）

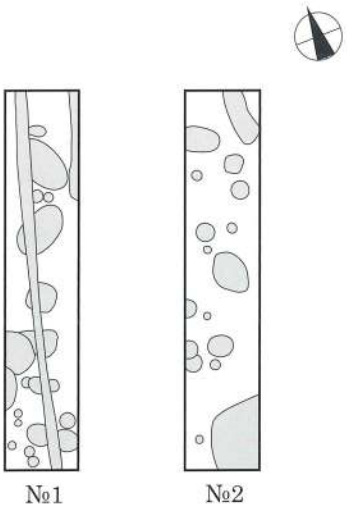
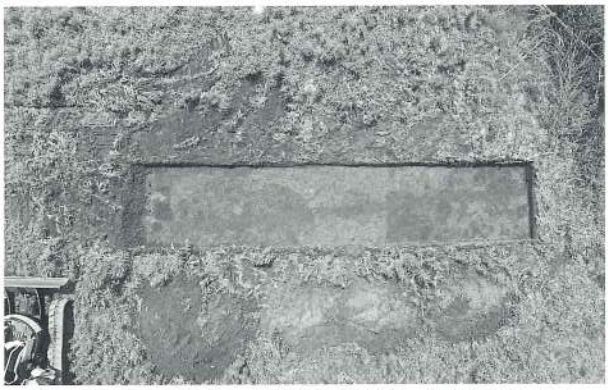


Fig. 16　トレンチ略図（1/200）



PL. 17　№1試掘溝　遺構検出状況（写真左が北）

PL. 18　№2試掘溝　遺構検出状況（写真左が北）

Ｒ０２－８

遺跡名：樫寺遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字樫寺850番3

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：338㎡

調査面積：16㎡

調査時期：令和2年6月26日

立地と環境：　樫寺遺跡は、上峰町大字坊所字樫寺一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡で、吉野ヶ里町目達原付近から本町坊所地区へ延びる坊所丘陵の中央部、標高約 9～11m 付近に位置している。

　調査対象区域は目達原丘陵の中西部、標高9m付近に位置しており、近年まで水田として利用され、確認調査時には宅地として盛土造成が行われていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

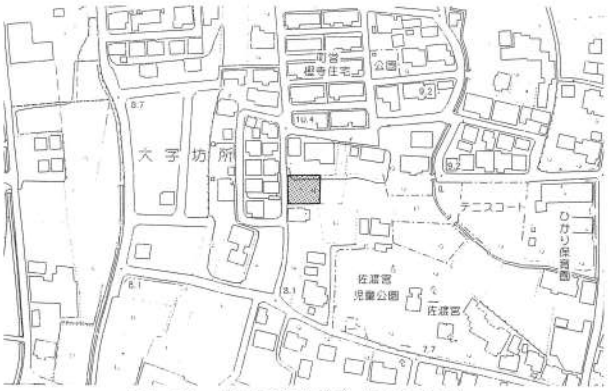


Fig.17　樫寺遺跡(1)（1/5,000）

PL. 19　調査地全景（南から）

Ｒ０２－９

遺跡名：三上遺跡(1)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2749番1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：287㎡

調査面積：21㎡

調査時期：令和2年6月29日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高 12m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig.18　三上遺跡(1)（1/5,000）

PL. 20　調査地全景（南から）

R０２－１０

遺跡名：三上遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2980番9

工事内容：分譲建売住宅建設工事

工事面積：416㎡

調査面積：6㎡

調査時期：令和2年6月29日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高 12m 付近に位置しており、これまで畑地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig.19　三上遺跡(2)（1/5,000）

PL. 21　調査地全景（北から）

R０２－１１

遺跡名：周知外上米多地区(1)

調査地：上峰町大字前牟田字五本松1824番1、1826番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：4,297㎡

調査面積：135㎡

調査時期：令和2年7月31日、8月3日、4日

立地と環境：　調査対象区域は町南西部、吉野ヶ里町目達原付近から本町上米多地区へ延びる目達原丘陵の東辺部、丘陵が沖積平野へ移行する部分標高 5～6m に位置している。

　調査対象地区に隣接する目達原丘陵上には小坊所遺跡、北畠遺跡、西前牟田遺跡、塔の塚廃寺跡などの遺跡が所在している。これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

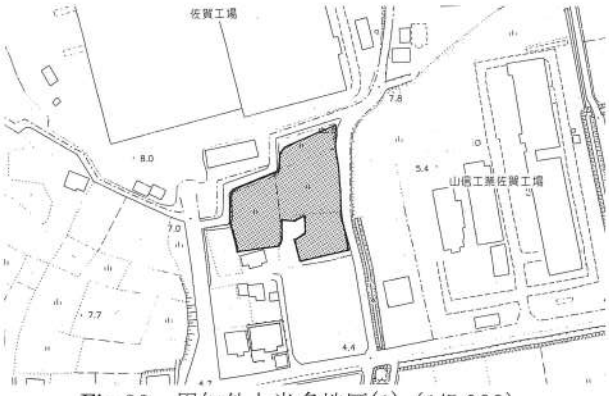


Fig.20　周知外上米多地区(1)（1/5,000）

PL. 22　調査地全景（南から）

R０２－１２

遺跡名：西前牟田遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字前牟田字祇園町1786番1、
1786番2、1793番、1796番2、1797番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：2,698㎡（うち調査対象面積1,615㎡）

調査面積：150㎡

調査時期：令和2年8月5日

立地と環境：　西前牟田遺跡は、本町南西部現上米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端部の微高地上に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域はこの目達原丘陵の南端部の微高地、標高 6m 付近に位置しており、これまで畑として利用されていた。

遺構と遺物：井戸跡・土壙・ピット・溝跡及び弥生土器片を確認した。

調査後措置：開発中止

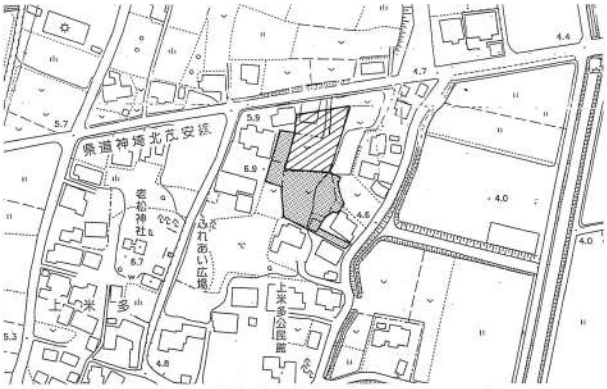


Fig. 21　西前牟田遺跡(3)（1/5,000）

Fig. 22　トレンチ設定図（1/2,000）

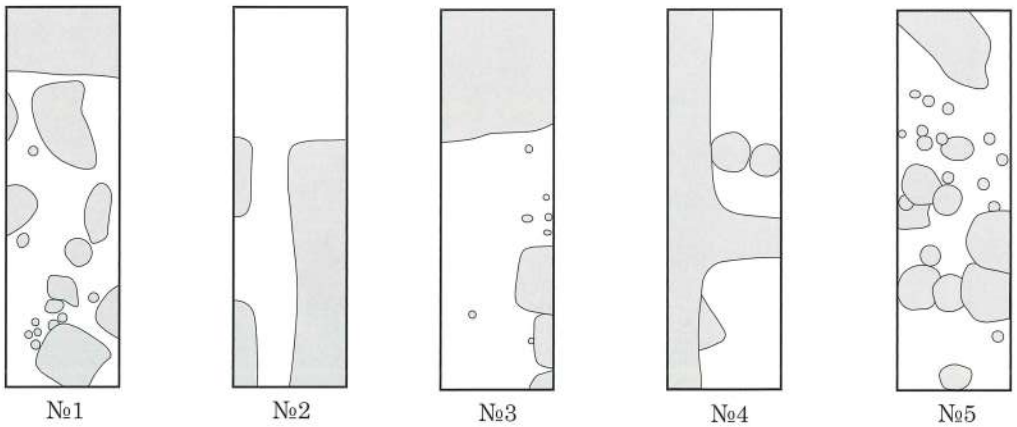


Fig. 23　トレンチ略図（1/200）

PL. 23　調査地全景（南から）

PL. 24　No.1試掘溝　遺構検出状況（南から）

PL. 25　No.2試掘溝　遺構検出状況（南東から）

PL. 26　No.3試掘溝　遺構検出状況（南から）

PL. 27　No.4試掘溝　遺構検出状況（南から）

PL. 28　No.4試掘溝断面

PL. 29　No.5試掘溝　遺構検出状況（北から）

PL. 30　No.5試掘溝断面

Ｒ０２－１３

遺跡名：三上遺跡(3)

調査地：上峰町大字坊所字三上3154番、3186番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：3,558㎡

調査面積：215㎡

調査時期：令和2年8月6日、7日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高 15m 付近に位置しており、これまで水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 24　三上遺跡(3)（1/5,000）

PL. 31　調査地全景（南から）

Ｒ０２－１４

遺跡名：四本谷遺跡

調査地：上峰町大字堤字四本谷 1364 番 1 の一部、1364 番 2 の一部

工事内容：納骨堂建設工事

工事面積：82㎡

調査面積：8㎡

調査時期：令和2年9月14日

立地と環境：　四本谷遺跡は、本町中北部、現切通集落西方に立地する二塚山丘陵の南部、標高 20m～38m 付近に位置する弥生時代の墳墓遺跡である。

　調査対象区域は二塚山丘陵の南部に位置し、井手口地区の一本谷遺跡と坊所一本谷遺跡を分かつ谷の谷頭付近標高 24m 付近に所在しており、既存建物が撤去され更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

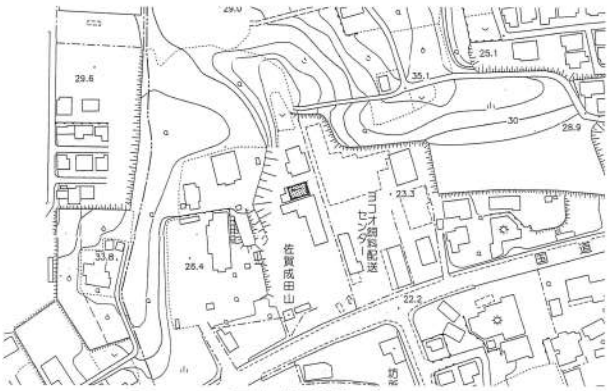


Fig. 25　四本谷遺跡（1/5,000）

PL. 32　調査地全景（南東から）

Ｒ０２－１５

遺跡名：米多城跡

調査地：上峰町大字前牟田字姥井鶴657番1

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：654㎡

調査面積：16㎡

調査時期：令和2年9月29日

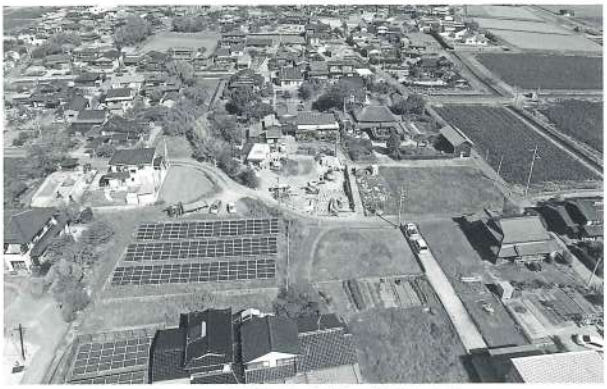
立地と環境：　米多城跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵南端が沖積地に没する下米多・寺家一・寺家二集落一帯の標高約 4m 付近に所在する中世の城館跡である。

　調査対象区域は現寺家二集落内の沖積地標高4m付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 26　米多城跡（1/5,000）



PL. 33　調査地全景（東から）

Ｒ０２－１６

遺跡名：樫寺遺跡(2)

調査地：上峰町大字坊所字樫寺667番3、849番4、
849番5、850番1、850番2、851番

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：3,248㎡

調査面積：170㎡

調査時期：令和2年9月30日、10月1日、2日

立地と環境：　樫寺遺跡は、上峰町大字坊所字樫寺一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は目達原丘陵の中西部、標高 9m 付近に位置しており、近年まで宅地、水田として利用されていた。

遺構と遺物：奈良時代の住居跡・土壙、中世の土壙・溝跡及び土師器片・須恵器片・中世土器片を確認した。

調査後措置：本調査（一部）終了後、工事実施

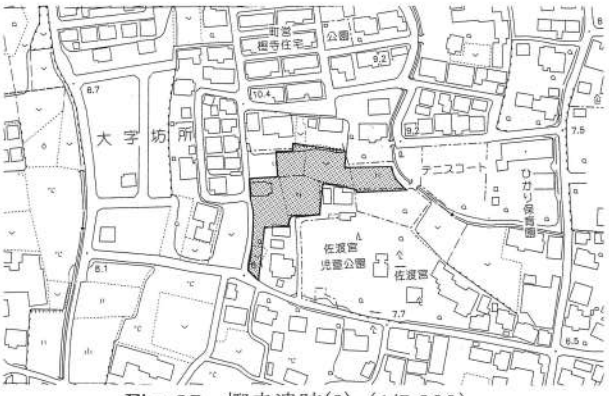


Fig. 27　樫寺遺跡(2)（1/5,000）

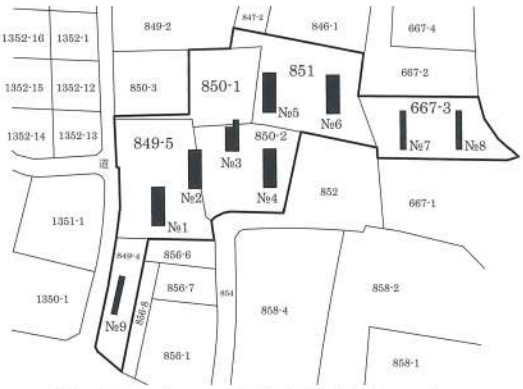


Fig. 28　トレンチ設定図（1/2,000）

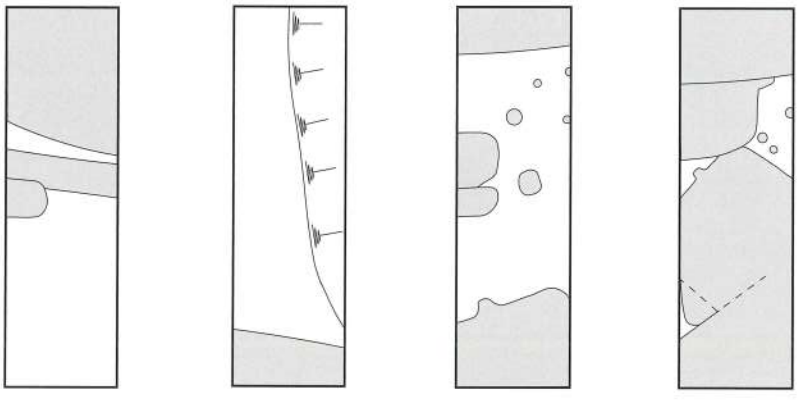
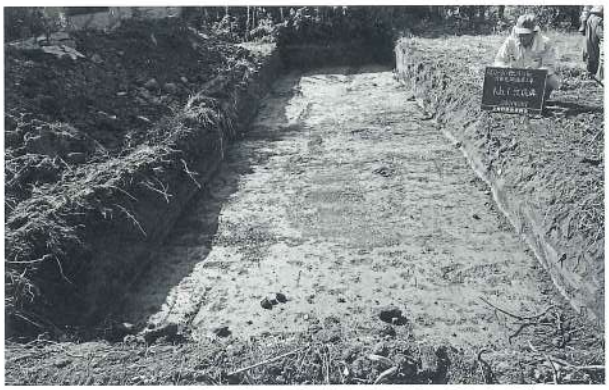
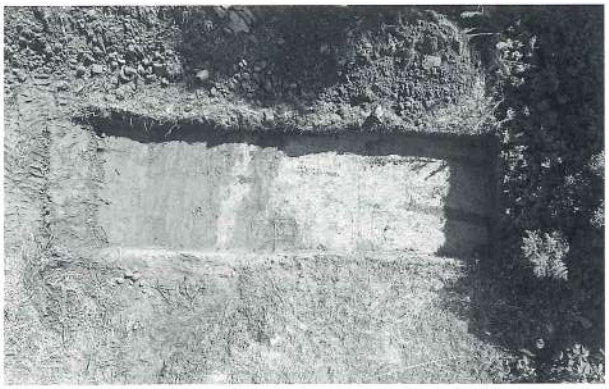


Fig. 29　トレンチ略図（1/200）

PL. 34　調査地全景（南から）



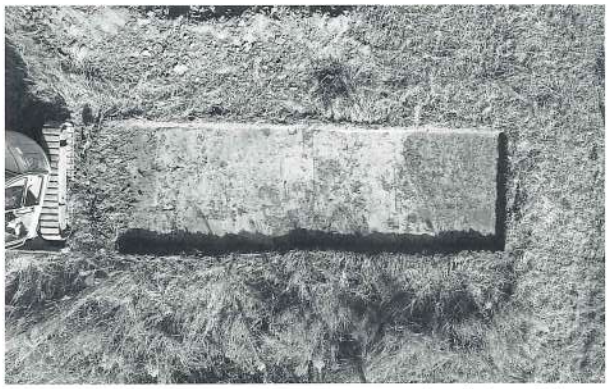
PL. 35　No.1試掘溝　遺構検出状況（北から）



PL. 36　No.1試掘溝　遺構検出状況（写真左が北）

PL. 37　No.2試掘溝　遺構検出状況（南から）

PL. 38　No.2試掘溝　遺構検出状況（写真左が北）



PL. 39　No.5試掘溝　遺構検出状況（写真左が北）

PL. 40　No.5試掘溝　遺構検出状況（北から）

PL. 41　No.6試掘溝　遺構検出状況（南から）

R０２－１７

遺跡名：坊所五本谷遺跡

調査地：上峰町大字坊所字五本谷2088番1

工事内容：戸建分譲住宅建設工事

工事面積：460㎡

調査面積：30㎡

調査時期：令和2年10月6日

立地と環境：　坊所五本谷遺跡は、本町郡境集落付近から下津毛集落付近へ延びる下津毛丘陵の南部、標高約 7～16m 付近に広がる弥生、古墳時代の集落及び墳墓遺跡である。

　調査対象区域はこの下津毛丘陵の東辺斜面、標高 12m 付近に位置しており、宅地として利用され、現在は更地となっている。

遺構と遺物：土壙・柱穴列・溝跡及び土師器片・須恵器片・中世土器片、中世陶磁器片・近世陶磁器片を確認した。

調査後措置：工事実施。検出された遺構については、盛土保存。

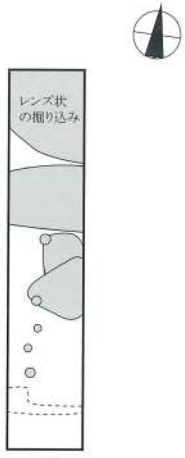


Fig. 32　トレンチ略図（1/200）

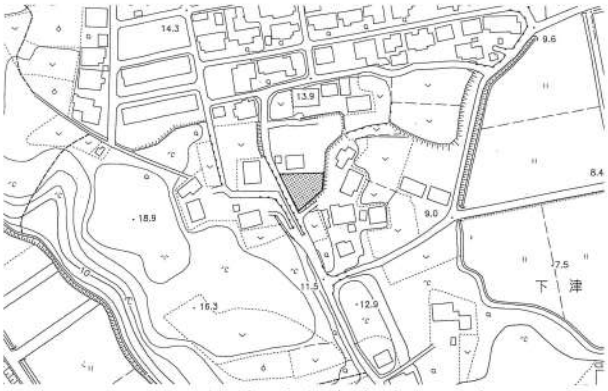


Fig. 30　坊所五本谷遺跡（1/5,000）

Fig. 31　トレンチ設定図（1/1,000）

PL. 42　調査地全景（南東から）

PL. 43　№1試掘溝　遺構検出状況（写真左が北）

Ｒ０２－１８

遺跡名：西峰遺跡

調査地：上峰町大字前牟田字小坊所1956番68　他45筆

工事内容：町道改良工事　　工事面積：2,129㎡　　調査面積：122㎡　　調査時期：令和2年10月20日、21日

立地と環境：　西峰遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の南部、標高約８～9m 付近に広がる弥生時代から古墳時代に及ぶ集落・墳墓遺跡である。

対象区域は目達原丘陵の南部、標高8m付近に位置し、周辺は水田・畑などの耕作地である。これまでは農道として利用され、東西方向に約450m延びている。

遺構と遺物：住居跡・土壙・ピット・溝跡及び古墳時代の埴輪片を確認した。

調査後措置：本調査(一部)終了後、工事実施

Fig.33　西峰遺跡（1/5,000）

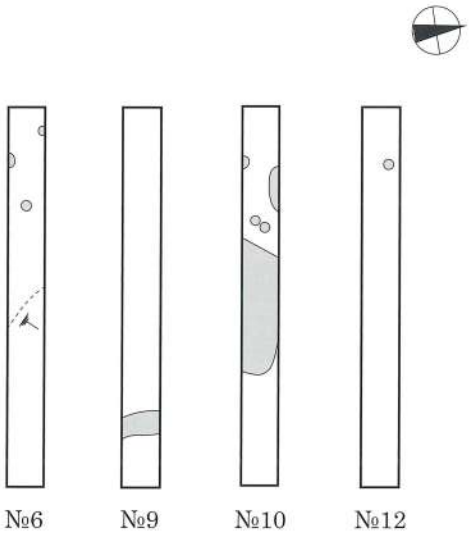


Fig. 34　トレンチ略図（1/200）

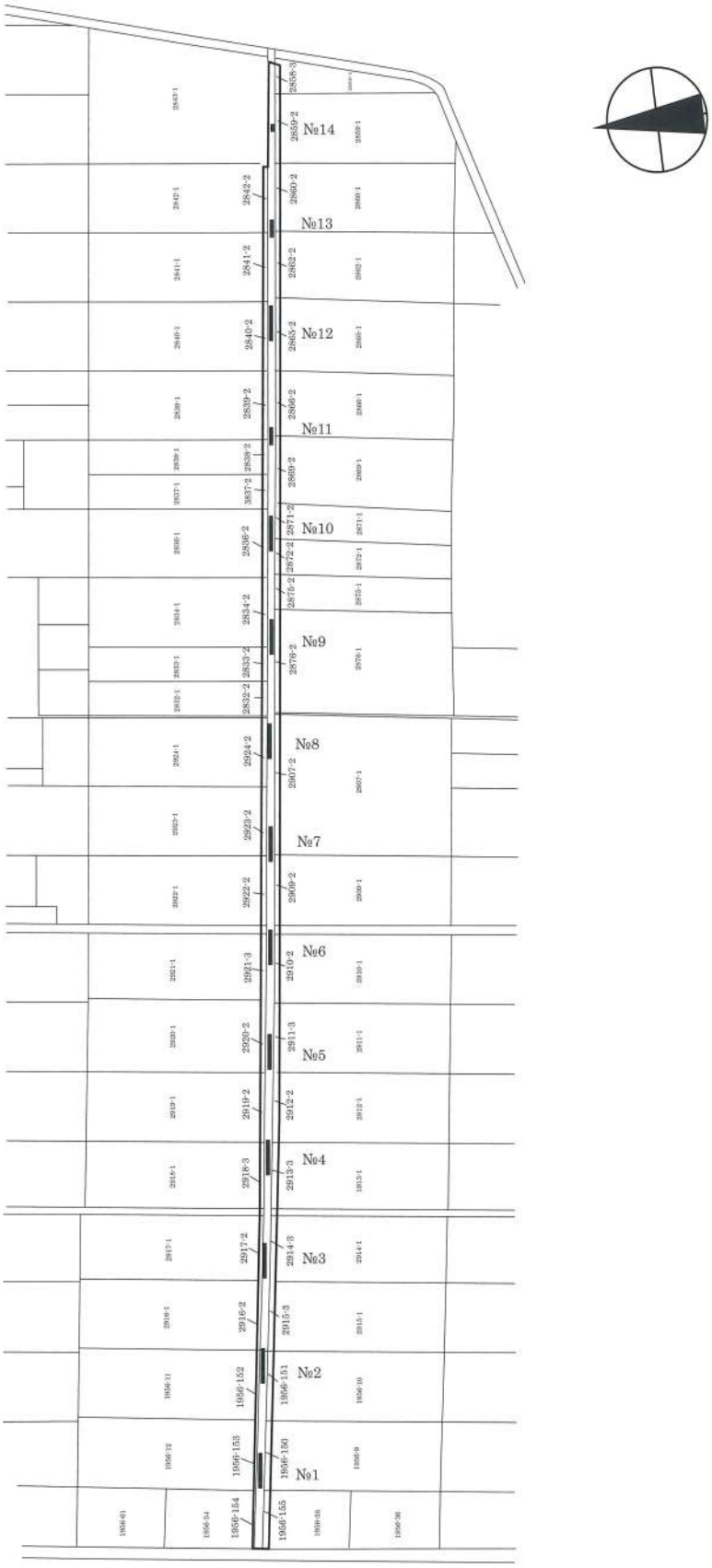
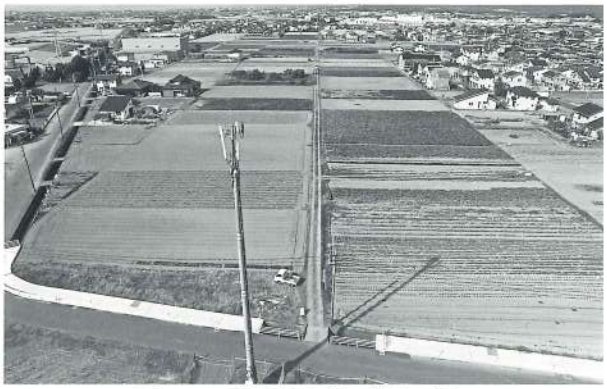


Fig. 35　トレンチ設定図（1/2,000）



PL. 44　調査地全景（東から）

PL. 45　No.6試掘溝　遺構検出状況（西から）

PL. 46　No.9試掘溝　遺構検出状況（東から）

PL. 47　No.9試掘溝断面

PL. 48　No.10試掘溝　住居跡検出状況（東から）

PL. 49　No.10試掘溝断面

PL. 50　No.12試掘溝　遺構検出状況（西から）

PL. 51　No.12試掘溝断面

R02－19

遺跡名：周知外上米多地区(2)

調査地：上峰町大字前牟田字五本杉1568番1

工事内容：共同住宅建設工事、太陽光パネル建設工事

工事面積：1,158㎡

調査面積：50㎡

調査時期：令和2年11月5日

立地と環境：　調査対象区域は町南西部、吉野ヶ里町目達原付近から本町上米多地区へ延びる目達原丘陵の南辺部、丘陵が沖積平野へ移行する部分標高 4m 付近に位置している。

　調査地はもともと水田であったが、その後造成工事を行い更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

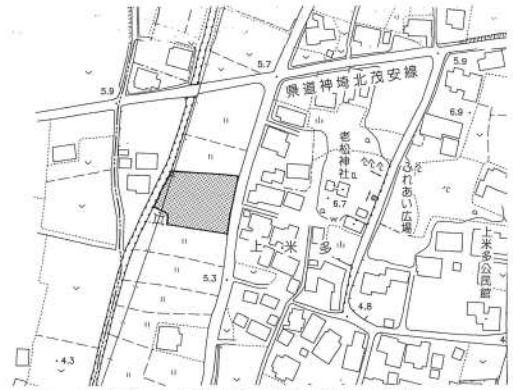


Fig.36　周知外上米多地区(2)（1/5,000）

PL. 52　調査地全景（南から）

R02－20

遺跡名：周知外上米多地区(3)

調査地：上峰町大字前牟田字五本杉1576番1、1580番1
1580番3、1581番1、1582番1

工事内容：資材置場造成工事

工事面積：2,889㎡

調査面積：80㎡

調査時期：令和2年11月5日、11月6日

立地と環境：　調査対象区域は町南西部、吉野ヶ里町目達原付近から本町上米多地区へ延びる目達原丘陵の南辺部、丘陵が沖積平野へ移行する部分標高 4m 付近に位置している。

　調査地は、これまで田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

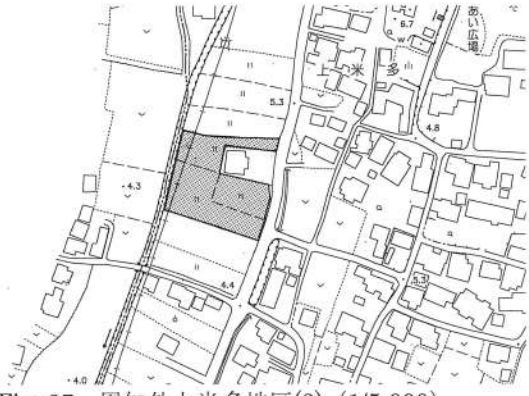


Fig. 37　周知外上米多地区(3)（1/5,000）

PL. 53　調査地全景（南から）

Ｒ０２－２１

遺跡名：三上遺跡(4)

調査地：上峰町大字坊所字西峰2962番11

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：464㎡

調査面積：40㎡

調査時期：令和２年11月24日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約8～16m付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高11m付近に位置しており、すでに宅地として区画造成され更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 38　三上遺跡(4)（1/5,000）

PL. 54　調査地全景（南から）

R０２－２２

遺跡名：鎮西山城跡

調査地：上峰町大字堤字三本黒木4474番1、4474番5、4474番6、4553番

工事内容：鎮西山再整備事業

工事面積：22,500㎡

調査面積：192㎡

調査時期：令和2年12月23日、25日、26日

立地と環境：　鎮西山は上峰町北部の山麓部、標高 202m の独立峰で、山頂部には主郭、副郭、出丸とみられる曲輪が残り、部分的に土塁や横堀がみられる。さらに山頂を取り巻く斜面には帯曲輪と思われる平坦部が 2，3 段廻っており、山頂一帯は実際に中世の山城として機能していたと考えられている。また山頂部から西方と南方へそれぞれ派生する支丘尾根部分には西古城（小城）、東古城のしこ名が残り、鎮西山城関連の施設ではないかと考えられている。

遺構と遺物：　山頂付近の各試掘溝から、中世山城の曲輪と考えられる平坦面、曲輪を区画する溝跡はじめ土壙やピットなどが検出された。また№6 試掘溝、№7 試掘溝では礎石様の石材も確認され、土層及び検出された各遺構の覆土から、中国製白磁・青磁片、中国製陶器片、国産陶器片、中世土器片等が出土した。アスレチック広場の各試掘溝からは、遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：次年度以降に本調査の予定。

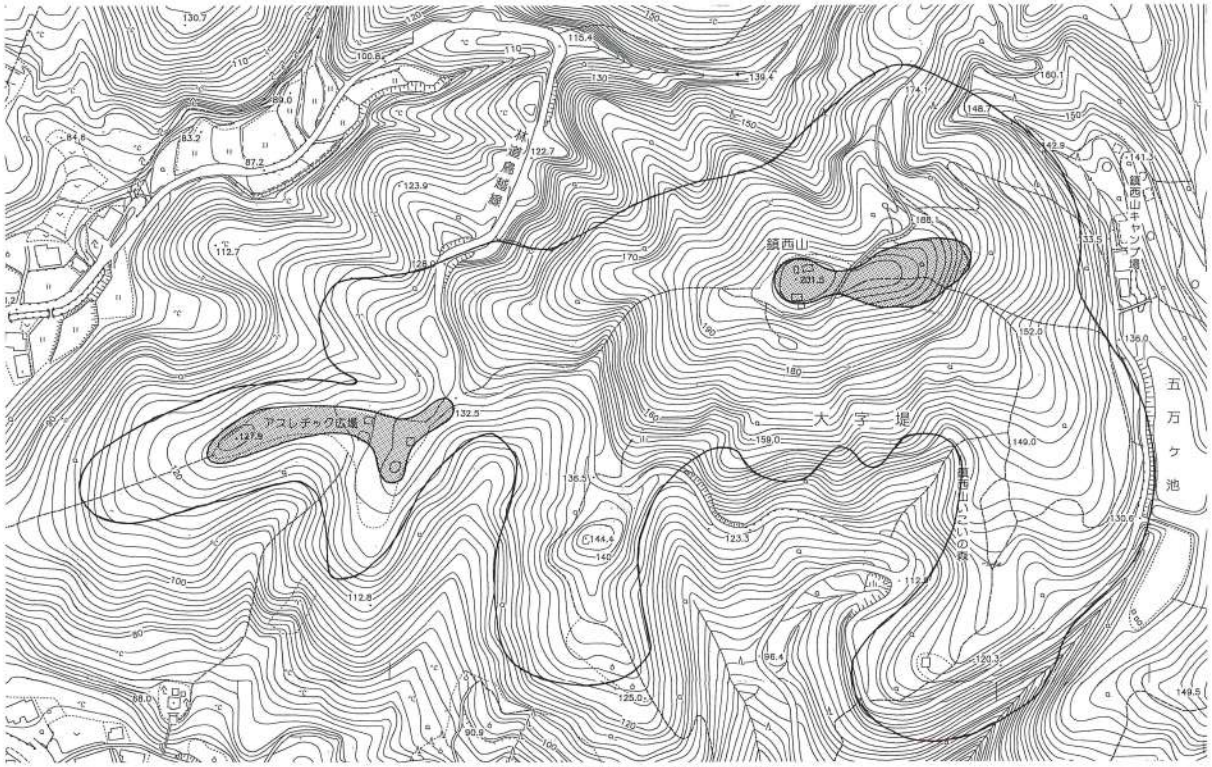


Fig. 39　鎮西山城跡（1/5,000）

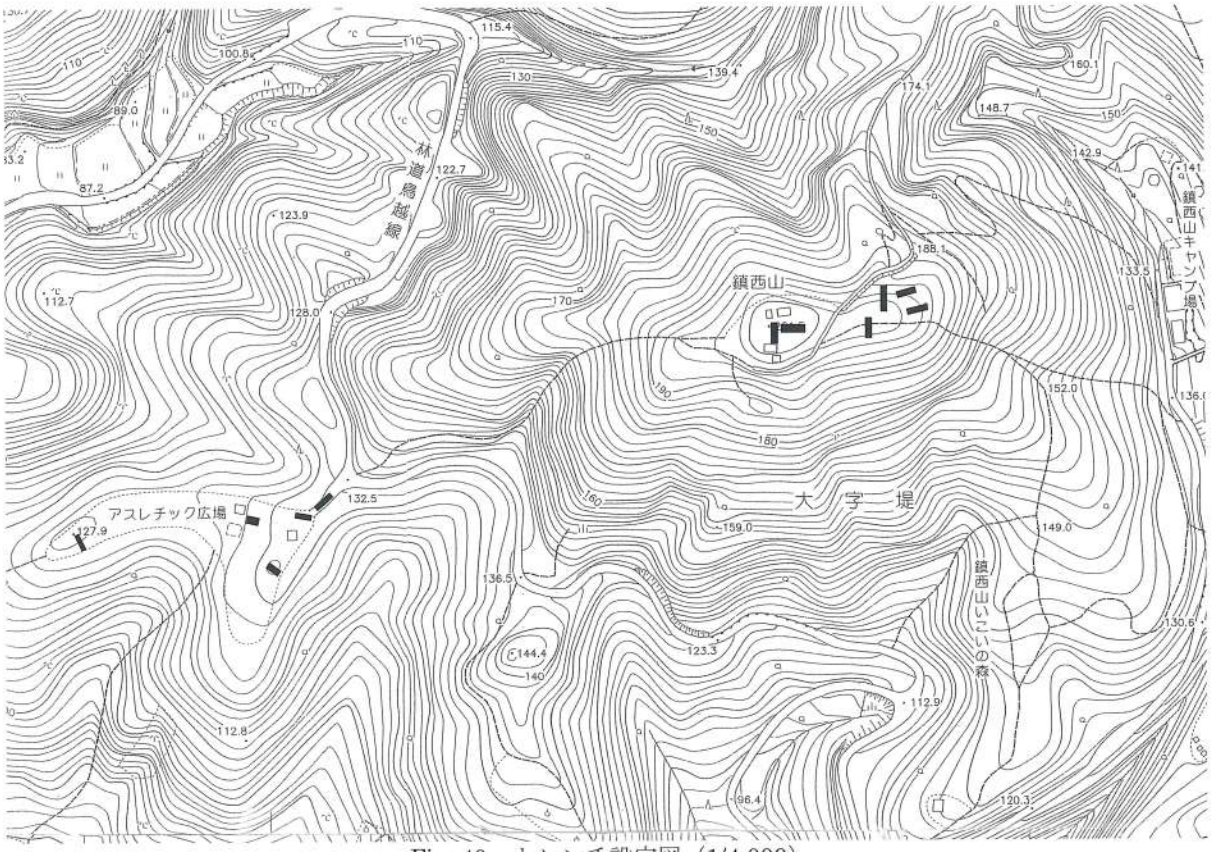


Fig. 40　トレンチ設定図（1/4,000）

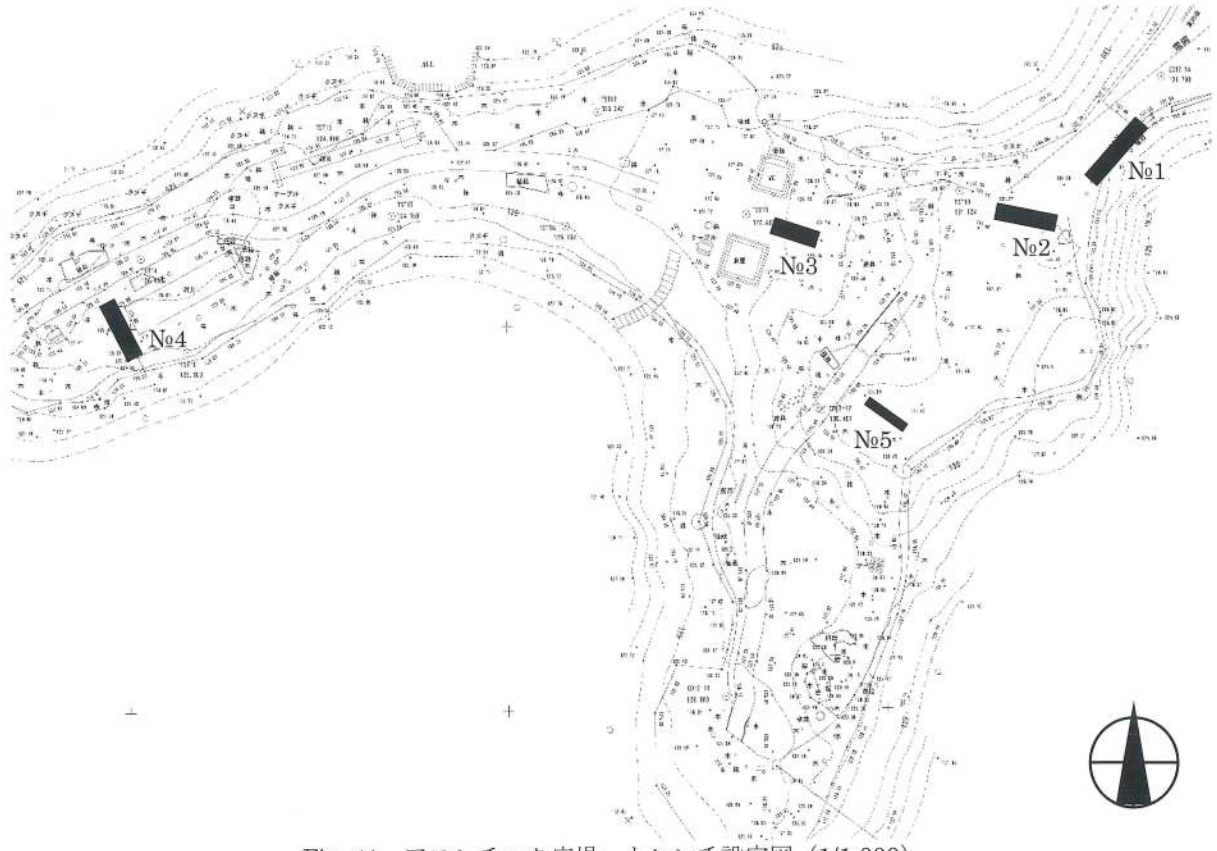


Fig. 41　アスレチック広場　トレンチ設定図（1/1,000）

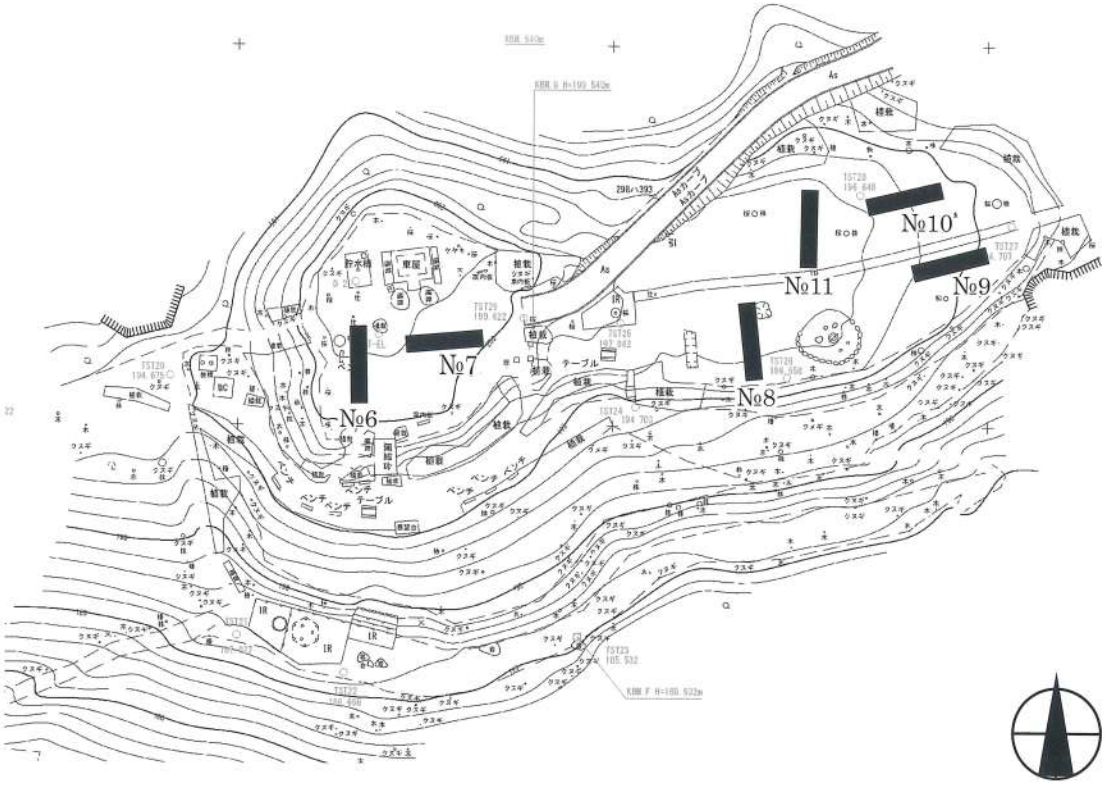


Fig. 42　山頂付近　トレンチ設定図（1/1,000）

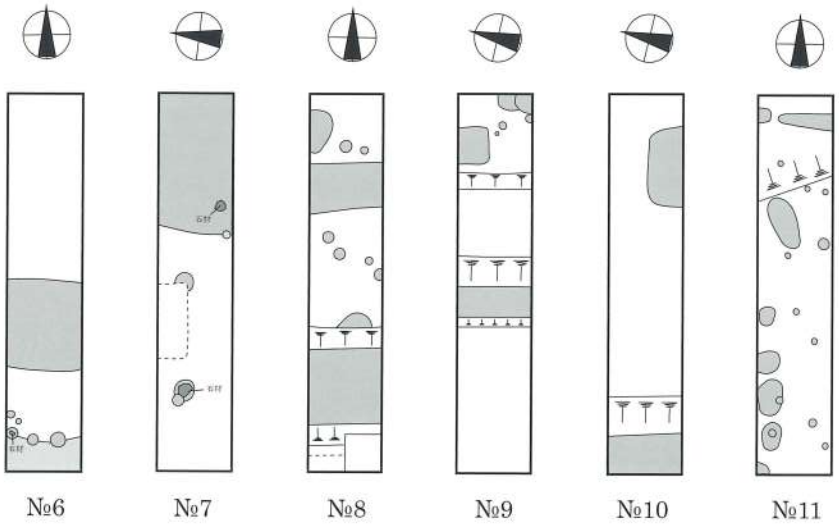
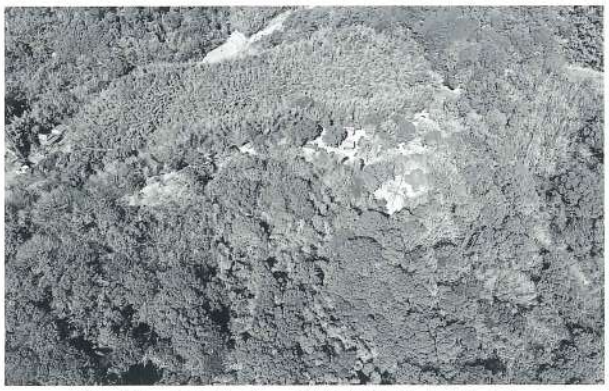


Fig. 43　トレンチ略図（1/200）



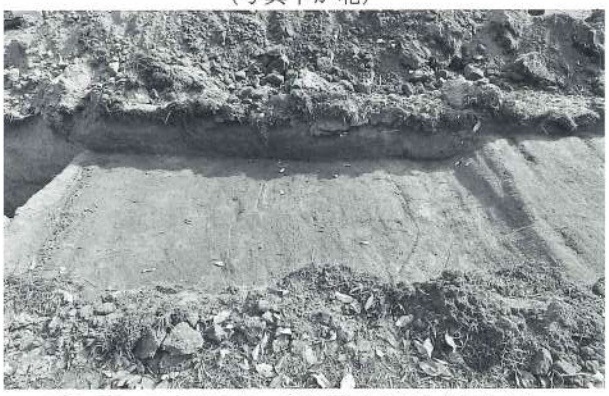
PL. 55　アスレチック広場遠景（南から）

PL. 56　鎮西山頂上付近全景(南から)

PL. 57　頂上付近No.6・7試掘溝配置状況
（写真下が北）

PL. 58　頂上付近No.8～11試掘溝配置状況
（写真下が北）

PL. 59　No.6試掘溝　遺構検出状況（写真右が北）

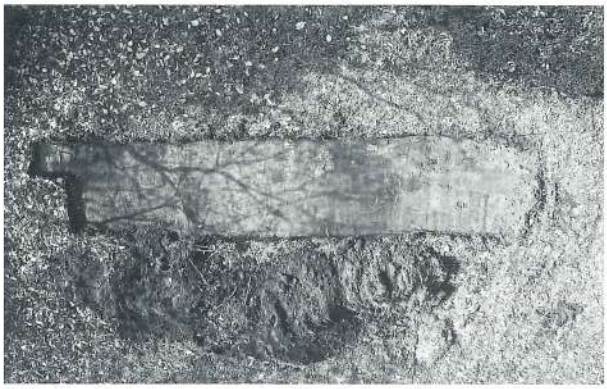


PL. 60　No.6試掘溝　溝跡検出状況（西から）

PL. 61　No.6試掘溝　礎石・ピット検出状況（西から）

PL. 62　No.7試掘溝　遺構検出状況（西から）

PL. 63　No.7試掘溝　遺構検出状況（写真左が南）



PL. 64　No.8試掘溝　遺構検出状況（写真右が北）

PL. 65　No.8試掘溝南側　溝跡検出状況（西から）

PL. 66　No.9試掘溝　遺構検出状況（西から）

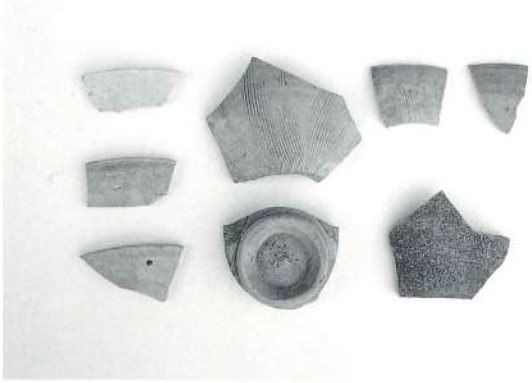
PL. 67　No.9試掘溝　溝跡検出状況（東から）

PL. 68　No.10試掘溝　遺構検出状況（東から）

PL. 69　No.10試掘溝　溝跡検出状況（北から）

PL. 70　No.11試掘溝　遺構検出状況（南から）

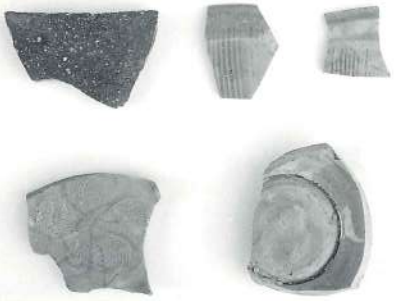
PL. 71　No.6試掘溝出土遺物



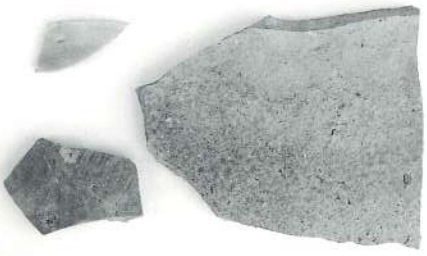
PL. 72　No.7試掘溝出土遺物

PL. 73　No.8試掘溝出土遺物

PL. 74　No.9試掘溝出土遺物



PL. 75　No.10試掘溝出土遺物



PL. 76　No.11試掘溝出土遺物

Ｒ０２－２３

遺 跡 名：三上遺跡(5)

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰2962番6

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：412㎡

調査面積：42㎡

調査時期：令和3年1月19日

立地と環境：　三上遺跡は、吉野ヶ里町目達原付近から本町米多集落付近へ延びる目達原丘陵の中央部、標高約 8～16m 付近に広がる縄文時代から奈良・平安時代に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は目達原丘陵の中央部、標高 11m 付近に位置しており、すでに宅地として区画造成され更地となっていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 44　三上遺跡(5)（1/5,000）

PL. 77　調査地全景(南から)

Ｒ０２－２４

遺 跡 名：杉寺遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字杉寺1271番5、
　　字西峰2815番

工事内容：共同住宅建設工事

工事面積：751㎡

調査面積：24㎡

調査時期：令和3年2月5日

立地と環境：　杉寺遺跡は、本町大字坊所字杉寺に所在する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象地は、目達原丘陵から本町坊所地区へ派生する坊所丘陵の標高 8m 付近に位置しており、これまでは水田として利用されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

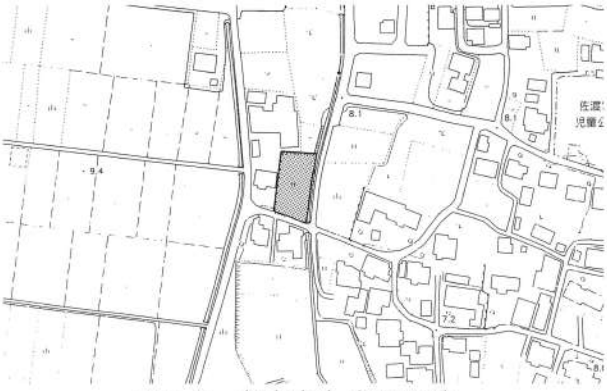


Fig. 45　杉寺遺跡（1/5,000）

PL. 78　調査地全景（南から）

Ｒ０２－２５

遺 跡 名：坊所三本松遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字西峰2845番1

工事内容：KDDI携帯無線基地局建設工事

工事面積：66㎡

調査面積：7㎡

調査時期：令和3年2月5日

立地と環境：　坊所三本松遺跡は、町中南部の大字坊所字三本松・西峰に所在し、現下坊所集落が立地する坊所丘陵南部および西方の目達原丘陵東辺部に位置する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は坊所丘陵の中央部、標高 9m 付近に位置しており、現状は雑種地であった。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

Fig. 46　坊所三本松遺跡（1/5,000）

PL. 79　調査区遠景（南東から）

R02－26

遺 跡 名：一本谷遺跡

調 査 地：上峰町大字坊所字三本谷2408番1、2408番2、2334番2、2381番、2387番、2388番

工事内容：屋外中古車展示場造成工事

工事面積：6,596㎡

調査面積：90㎡

調査時期：令和3年2月24日、25日

立地と環境：　一本谷遺跡は、本町北部の大字堤地区の二塚山丘陵から国道 34 号線以南の本町中部の大字坊所字一本谷付近へ延びる井手口丘陵上に広がる縄文時代から古墳時代に及ぶ集落および墳墓遺跡である。

　調査対象区域は、この井手口丘陵の中央部、標高 25m 付近に位置しており、これまで宅地として利用されていた。

遺構と遺物：土壙・ピットを確認した。遺物は確認されなかった。

調査後措置：工事未着手

Fig. 47　一本谷遺跡（1/5,000）

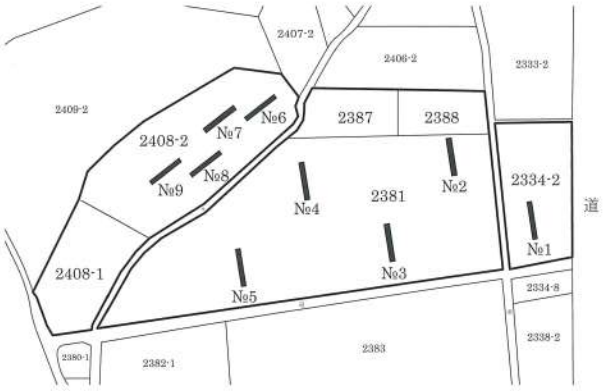
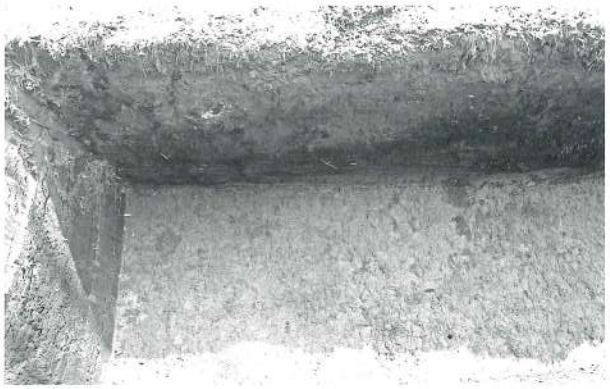
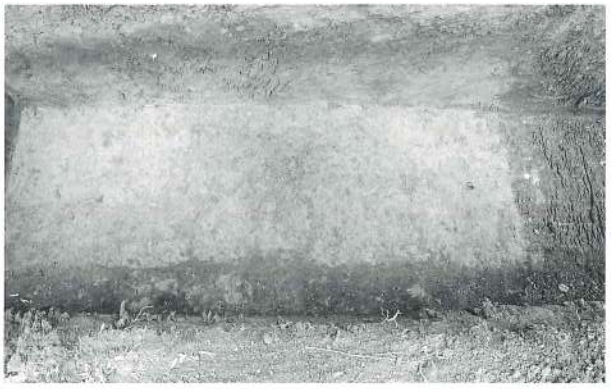


Fig. 48　トレンチ設定図（1/1,000）



PL. 80　№7試掘溝　遺構検出状況（北西から）



PL. 81　№9試掘溝　遺構検出状況（南東から）

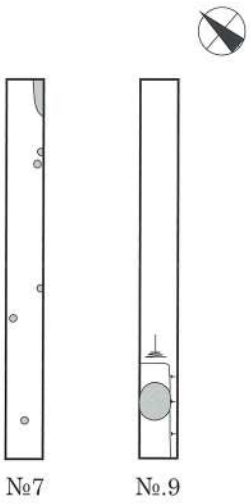


Fig. 49　トレンチ略図（1/200）

R０２－２７

遺 跡 名：樫寺遺跡(3)

調 査 地：上峰町大字坊所字樫寺579番1の一部、
580番1の一部、581番1

工事内容：分譲宅地造成工事

工事面積：812㎡

調査面積：70㎡

調査時期：令和3年3月9日

立地と環境：　樫寺遺跡は、上峰町大字坊所字樫寺一帯を占有する弥生時代から中世に及ぶ集落遺跡である。

　調査対象区域は坊所丘陵の東縁部、標高 9m 付近に位置しており、これまで宅地、畑として利用されていた。

遺構と遺物：住居跡・土壙・溝跡・ピット及び弥生土器片、土師器片を確認した。

調査後措置：道路部分の側溝、上下水道埋設工事については工事立会。宅地部分については、工事の影響が及ばないことを確認し、盛土保存。

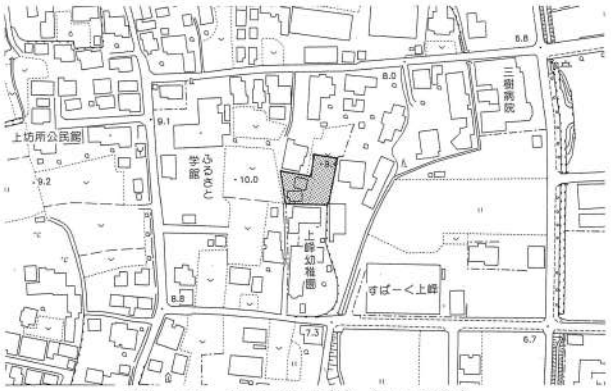


Fig. 50　樫寺遺跡(3)（1/5,000）

Fig. 51　トレンチ設定図（1/2,000）

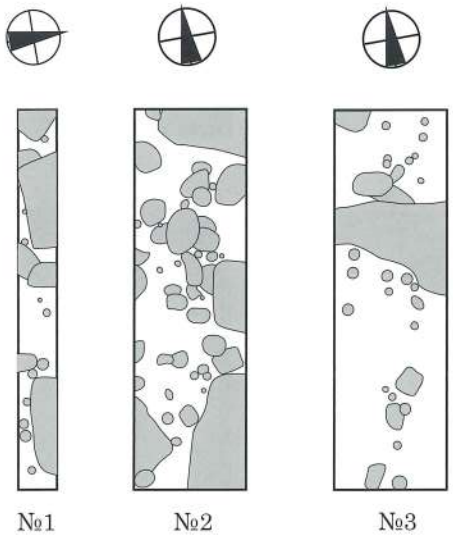
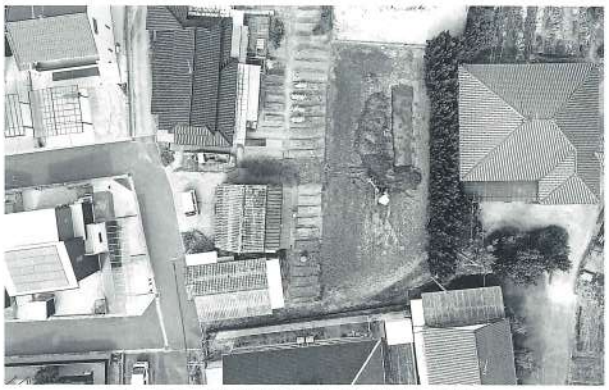
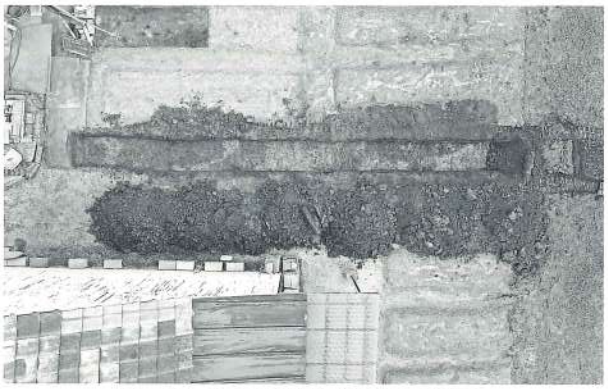


Fig. 52　トレンチ略図（1/200）

PL. 82　調査地全景（南から）



PL. 83　調査地全景（写真上が北）



PL. 84　No.1試掘溝（写真上が北）

PL. 85　No.1試掘溝　遺構検出状況（東から）

PL. 86　No.2試掘溝（写真左が北）

PL. 87　No.2試掘溝　遺構検出状況（東から）

PL. 88　No.3試掘溝（写真左が北）

PL. 89　No.3試掘溝　遺構検出状況（東から）

Ｒ０２－２８

遺 跡 名：二本柳古墳群

調 査 地：上峰町大字堤字谷渡1651番330、1651番331

工事内容：個人専用住宅建設工事

工事面積：364㎡

調査面積：30㎡

調査時期：令和3年3月25日

立地と環境：　二本柳古墳群は、本町北部の大字堤地区の八藤丘陵北部から国道 31 号線以南の大字堤字谷渡に広がる古墳群である。

　調査対象区域は、この八藤丘陵の北部、標高 52m 付近に位置しており、これまで畑地として利用され、また農業用倉庫が設置されていた。

遺構と遺物：遺構・遺物は確認できなかった。

調査後措置：工事実施

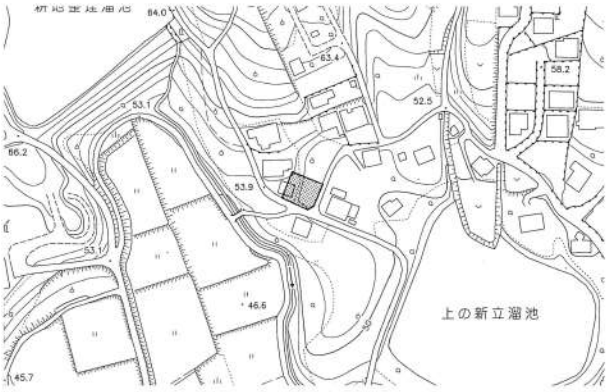


Fig. 53　二本柳古墳群（1/5,000）

PL. 90　調査区全景（南東から）

報　告　書　抄　録

ふりがな	かみみねちょうないいせきかくにんちょうさⅩⅢ
書名	上峰町内遺跡確認調査ⅩⅢ
副書名	上峰町内における開発行為に伴う埋蔵文化財確認調査報告書　―令和2年度―
巻次	
シリーズ名	上峰町文化財調査報告書
シリーズ番号	第54集
編著者名	原田　大介・松浦　智・伊達　有彩
編集機関	上峰町教育委員会
所在地	佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4　上峰町民センター内　Tel 0952-52-3833/Fax 0952-52-3888
発行年月日	2022年3月31日

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯 ° ′ ″	東経 ° ′ ″	調査期間	調査面積㎡	調査原因
ちょうないいせき 町内遺跡	さがけんみやきぐん 佐賀県三養基郡 かみみねまち 上峰町一円	41345				2020. 4. ～ 2021. 3		町内における各種開発行為

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
町内遺跡	集落跡 城館跡	弥生 古墳 奈良・平安 中世 近世	住居跡・溝状遺構・土壙・ピット等	弥生土器・須恵器・土師器・中世土器・中世陶磁器・近世陶磁器等	

発掘現場から
文化力
POWER OF CULTURE

上峰町文化財調査報告書第54集

上峰町内遺跡確認調査ⅩⅢ

令和4年 3月31日 発　行

編　集
発　行　上峰町教育委員会
佐賀県三養基郡上峰町坊所319-4

印　刷　大同印刷株式会社
佐賀県佐賀市久保泉町上和泉1848-20